

学内広報

for communication across the UT



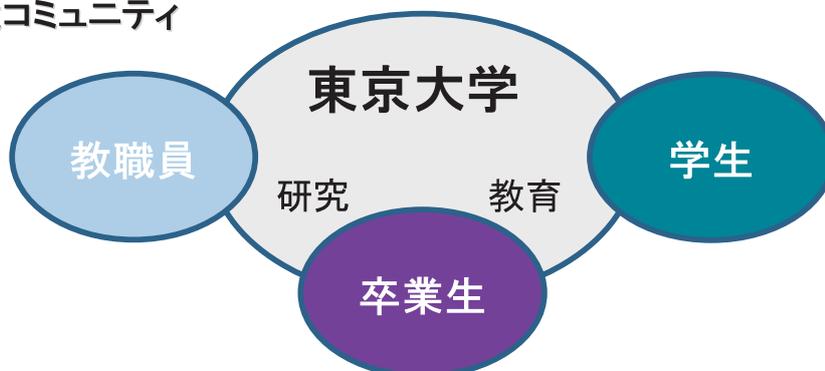
特集： ■ 「卒業生室」の活動とは？

2011.3.24

No. 1410

「卒業生室」の活動とは？

グレーター東大コミュニティ



Program

東大ワールドカフェ

カフェ的会話・討論でつながるサロン型の交流プログラム。既存の枠組みを超え、異業種仲間と新しいネットワークを創造する場です。

—参加した卒業生たちの感想です—

柏の新領域創成科学研究科で、環境を専攻しました。現在は電力会社の研究所で低炭素社会の実現に向けた研究開発に従事しています。新しい視点を探して参加しました。
藤沢星さん・新領域創成科学研究科

CPAで、会社経営もしています。若い人が新規の仕事にチャレンジすることを支援したいと思い、その中で社会貢献が実現できたら、と思っています。
野口真有美さん・経済学部

リーマンショック後の先進国経済は方向性を失って漂流を続けています。21世紀の新しいチャレンジに一人ひとりが取り組む必要があると思います。この会は2回目の参加ですがその都度新鮮な刺激を受けます。
木方 元治さん・経済学部

多様な世界で活躍する方との対話により、普段の自分が限られた人としが接していないことを発見しました。異なる視点との出会いは、自分を成長させる貴重な機会であり、次回以降もぜひ参加させて頂きたいです。
鈴木理子さん・薬学系研究科

属している同窓会からのメールでこのイベントを知りました。ベンチャーに関する幅広い視点に接することができるのでは？ と思い参加しました。
戸矢理衣奈さん・文学部

関西圏の同窓会「関西東大会」でもワールドカフェを開催しようと意気込んでいます。
久武正明さん・工学部

様々なフィールドで活躍する卒業生が日常の喧騒を離れて大学に集い、真剣なテーマについてゆるく愉しく語り合います。「異質な考えに触れ、自ら語るにより気づきを得る」大人の学びと交流の場です。
加藤宏一郎さん・経済学部

◆キーノートスピーカー

- 第1回 / 藤森義明
日本GE株式会社 代表取締役社長 兼 CEO
- 第2回 / 松本大
マネックス証券株式会社 代表取締役社長
- 第3回 / 久保田孝
宇宙航空研究開発機構
宇宙科学研究所教授
- 第4回
ロバート・アラン・フェルドマン
モルガン・スタンレー証券株式会社
マネージング・ディレクター・経済調査部長
- 第5回 / 厳浩
イービーエス株式会社 代表取締役社長
- 第6回 / 後藤玄利
ケンコーコム株式会社 代表取締役社長

★★★ 告知 ★★★

第7回 / 4月7日(木)

高島宏平

オイシックス株式会社 代表取締役社長



卒業生室は、卒業生と大学との密接な連携の推進や卒業生のネットワーク化、世代間の知の継承を図る卒業生と学生のコミュニケーションを促進し「グレーター東大コミュニティ」の形成を目指しています。多くの卒業生が参加・関与できるプログラムを積極的に推進しています。

Program

グレーター東大塾

講義型で、世界的視野に立って公正な社会の実現や科学・文化の創造に貢献し続けるための仕組みを作ります。「木の社会の実現に向けて」（塾長：安藤直人農学部教授）は3月末にて修了。2011年度は「海洋アライアンス」をテーマに開講する予定です。



Program

ボランティア活動支援

日本人学生の留学や海外におけるインターンシップの支援、交換留学制度の充実、留學生の生活・就職支援、留學生による社会への貢献活動支援等について卒業生が参画し、学生の満足、ステップアップを支援。



海外大学院留学説明会

Program

TODAI for Tomorrow (TFT)

「先輩とつながる」「同期とつながる」「東大とつながる」東大オンラインコミュニティ。大学の「今」を伝えるメルマガ配信や、各種卒業生向けサービスを登載。2011年度は英語対応も可能。まだ登録されていない東京大学卒業の教職員の皆様、ぜひご登録ください。

Program

外国人卒業生ネットワーク

外国人卒業生へのアウトリーチや外国人同窓生を巻き込んだ海外同窓会の立ち上げ支援。2011年度は外国人卒業生のネットワークに英語による情報配信をし、ネットワークの活性化を図ります。

2011
New Program

東大アラムナイFacebook

さらなる卒業生との緊密なネットワークの形成とその強化のため、東大SNSを開設。卒業生に向けて情報交換や交流の場を提供します。6月よりオープンで現在準備中。
(図はイメージです)



アラムナイ本体

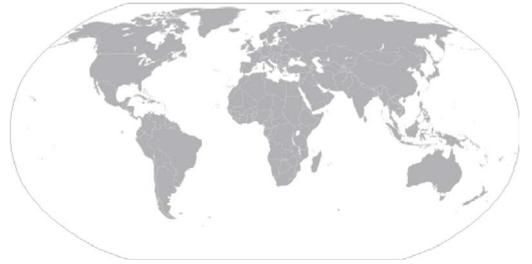


アラムナイFacebook

卒業生の小グループ



— 東京大学同窓会 — 海外の卒業生ネットワーク最新事情



2010年から海外の卒業生組織並びに各国に在住する留学生経験者のネットワーク構築に力を入れ、様々な活動を続けています。今回はその概要を紹介します。

<http://www.todai-alumni.jp/dousoukai/>



3月6日に開催された東京大学華人校友会の様子

◆国際化に向けて大きな一歩

留学生の過半数出身地域であるアジア各地の卒業生団体を強化。外国人同窓会が新たに同窓会を立ち上げました。

- ・東京大学台湾校友会準備会(台湾/2月21日)
- ・東京大学華人校友会(中国/3月6日)
- ・韓国東京大学同門会(韓国/3月18日)

◆海外同窓会

2011年3月末現在、世界各地に22の同窓会組織があります。

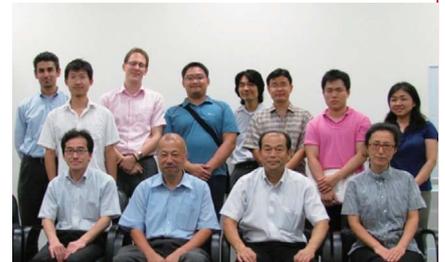
- ・米国8/中国3/タイ2/ドイツ2/韓国・台湾・バングラディッシュ・オーストラリア・フランス・オランダ・イギリス各1

◆欧州のネットワークを構築

6月2日のプレジデント・カウンスル(於ジュネーブ)を機に、総長主催の歓迎パーティを開催します。ヨーロッパ各地に在住している卒業生にお集まりいただく予定です。さらにこの機会を活用して各地で同窓会を立ち上げていただくよう、要請しています。

◆今後の外国人留学生のネットワーク化

ベトナム、インド、ネパール、チュニジア、マレーシア他、東京大学内にある留学生会の国々を対象に、順次設立の支援をしたいと考えています。学内各部局からの情報、およびご協力をお願いします。



外国人卒業生ネットワーク構築準備会



ベトナム赤門会朝食会の様子

◆大学と海外各地の同窓会との交流

大学役員などの海外出張の際 各地同窓会メンバーと朝食会・昼食会などの交流を通じてコミュニケーションを図る。(既に米国では実行案を整備中、引き続き欧州各地)

海外同窓会のお問い合わせは卒業生室赤門学友会まで
gakuyukai@mail.u-tokyo.ac.jp

NEWS

一般ニュース

本部評価・分析課

平成 23 年度 学科の設置等について

一般

教養学部教養学科、統合自然科学科、学際科学科の設置

平成 23 年 4 月 1 日から設置される、教養学部教養学科、統合自然科学科、学際科学科の設置の趣旨・必要性等は次のとおりである。

1. 設置の趣旨・必要性

東京大学教養学部は、late specialization を特徴としつつ、学際性と国際性を重視し、高度教養教育を行う場として 1949 年に設置された。これまで、教養学部前期課程の充実により一定の成果を収めてきたが、教養学部後期課程においても、グローバル化により急速に変化する社会や急速に発展する科学技術並びに複雑化する学問に対応し、学生の要望に応じていくために、従来の学科・分科の枠組みを再編成し、さらなる高度教養教育カリキュラムを策定することが必要となっている。このため、平成 23 年 4 月に、既存の 6 学科を 3 学科へ改組することとした。

具体的には、グローバル化による社会の急速な変動と学問の変容の中で、広い視野のもと、多様なディシプリンを踏まえながら、問題群の流動化・問題領域の複合化に創造的に対処し、その努力を具体的成果にまとめあげることができ、国際的、社会的な諸分野で信頼され活躍する力強い人材の養成を目的として、既存の「超域文化科学科」「地域文化研究学科」「総合社会科学科」を改組し、「教養学科」を設置する。

また、境界領域の科学から一歩進んで、学問領域を自由に越境、横断し、自然科学知をインテグレート（統

合）し、新たな領域を開拓する研究者の養成や、深い専門性と幅広い豊かな知性を有する自然科学的教養人の育成を目的として、既存の「基礎科学科」と「生命・認知科学科」を改組し、「統合自然科学科」を設置する。

さらに、文理を問わず柔軟な思考と適切な方法論を用いて、地球規模の多様な課題に総合的視点をもって対処できる人材の養成を目的として、既存の「広域科学科」及び「基礎科学科」を改組し、「学際科学科」を設置する。

2. 教育課程の編成の考え方・特色

<教養学科>

教養学科では、高度教養教育を通じて、(i) 総合的な視点と柔軟な理解力、(ii) 国境や地域を自在に横断しうる問題意識と能力を習得させる。また、学際的専門性を磨く教育を通じて、(iii) 現代社会の要請にひらかれた先鋭的な問題意識、(iv) 学際的で創造的な問題解決の能力を習得させる。さらに、学生とともにある少人数の教育を通じて、(v) 確かな自信と達成感、(vi) 成熟した主体性を身に付けさせる。これらの教育目的を達成するために、「超域文化科学分科」「地域文化研究分科」及び「総合社会科学分科」の 3 分科を設け、人文・社会科学系の諸分野を、有機的に連関する 18 のコースに再編し、学際的で多様な専門科目を提供する。学生は、所属する分科の中から 1 つのコースをメジャーとして選択・履修するが、所属する分科内・外の他のコースをサブメジャーとして、自由に横断的に選択・履修することができる。メジャー/サブメジャーの専門的なプログラムの選択的・横断的な学習を通じて、現代社会の要請に応じる先鋭的な問題意識を養い、主題やアプローチを自ら創案しまとめていく能力を習得させる。

また、高度な教養を育むための学科共通カリキュラムとして、「学科共通科目」の新設、「共通外国語」の再編、「専門外国語」（「外国語による専門科目」）の新設を通じて、総合的な視点と柔軟な理解力、高度な多言語力を養い、国境横断的な問題意識や能力を習得させる。

<統合自然科学科>

統合自然科学科では、多様で深い選択を可能とする教育システムを構築するため、分子や遺伝子・たんぱく質等を扱う学問としての化学や生命科学等の微視的の科学及び人間自身を科学的対象とする認知行動科学やスポーツ科学を生命・人間科学の両輪と位置付け、「数理自然科学コース」、「物質基礎科学コース」、「統合生命科学コース」、「認知行動科学コース」の 4 コース及び「スポーツ科学サブコース」を設ける。学生は 4 コースのうちいずれかを主専攻として選択するが、関心に応じて他コース又はスポーツ科学サブコースを副専攻として履修できる副専攻制を導入する。これにより、学生は複数の分野を修得することが可能となる。

<学際科学科>

学際科学科では、文系・理系にまたがる学際的知識を習得し、現代社会の複雑な課題に対する柔軟な思考と適切な方法論を身に付け、新しい課題に総合的な視点をもって対処できる能力を養うため、新たに「科学技術論コース」、「地理・空間コース」、「総合情報学コース」、「地球システム・エネルギーコース」の4つのコースを設け、この4つのコースを軸に教育課程を編成する。フィールドワークや実験、少人数による演習を多く取り入れることにより、学生のコミュニケーション能力を高め、柔軟で力強い人材を養成する。

また、コース間の相互浸透性を高めるために、新たにコース間を横断する「サブプログラム」を設け、各コースによって、科学技術論、地理・空間、総合情報学、地球システム・エネルギー、進化学の5つを開設することで、複数の専門分野を系統的に習得させることを可能とする。

<学科間連携による科目の提供>

学科間の柔軟な連携により、他学科の講義についても積極的に履修できるようにするとともに、複数の学科に関わる最新の研究成果を授業で紹介する「学融合プログラム」として、「グローバル・エシックス」、「進化認知脳科学」、「バリアフリー」、「科学技術インタープリター」の4つのプログラムを提供し、学生の多様な学習形態をサポートする。

3. 学位

学士（教養）

4. 入学定員

教養学科：65人
統合自然科学科：50人
学際科学科：25人

大学院工学系研究科精密機械工学専攻の名称変更

平成23年4月1日から名称変更される、工学系研究科精密機械工学専攻（新名称：工学系研究科精密工学専攻）の名称変更の理由等は次のとおりである。

1. 名称変更の理由

精密機械工学専攻では、これまで、計測技術・メカトロニクス・加工技術などを基盤技術として、精密科学機器や生産技術などの分野で多くの優れた成果を生み出してきた。しかし一方で、製品あるいは人工物がひきおこした環境問題、資源・エネルギー問題、生産の大半を海外に頼る産業構造など、日本の製造業は、新興工業国との競争面で厳しい状況にあり、この危機を打開するための、持続可能な社会を実現する技術が求められている。本専攻では、精密科学やものづくり産業を支える技術に革新を与える学術研究として、マ

イクロナノレベル現象の精密測定学、マイクロナノレベルの加工現象を取り扱う精密加工学、これらの基盤技術を駆使したモノの設計生産の高度化のための生産科学、精密システム構成学、サービス工学等の学術研究に取り組んでいる。また、同分野における優れた人材の育成を目的に、精密機械（精度が性能を決める機械、測定器、ロボット、コンピュータ、医療機械、宇宙機器など）を作るためのハード（精密化）・ソフト（知能化）・サービス開拓の知識や実践力を修得できるよう、精密工学の基盤となる1)計測工学、2)精密加工学、3)マイクロシステム工学、4)メカトロニクス工学、5)生産システム工学、6)設計システム工学の各分野に対応する授業科目を配置して教育を推進している。

また、本専攻へ進学する学部学生は、精密工学のベースとなる基礎工学を教育する工学部精密工学科の卒業生が主となっている。

そこで、学部学科の名称に合わせるとともに、実際の教育内容に則した専攻名称となるよう、「精密機械工学専攻」を「精密工学専攻」に名称変更する。

2. 新名称の対象年次

第1年次

 一般	本部管理課
	地域とつながる — 柏ロッジの国際交流 —

柏ロッジでは、昨年9月から2カ月間計16回にわたり、相談主事（小貫元治特任准教授）が中心となり、柏市民踊連盟会長の富泉旭連先生をお招きして日本舞踊レッスンを行った。

11月7日（日）に行われた富泉流発表会では、柏ロッジ居住者12名が参加し、華やかな群舞の『東京鳴子踊り』と『米節』、宮城県民踊の『さんさ時雨』を披露した。



白塗り化粧に着物姿で『米節』を踊る留学生たち

会場となった柏市民文化会館を埋め尽くした観客からは大きな拍手で迎えられ、「2カ月間の練習とは思えない程、よく踊れている」、「色々な国の学生たちが日本文化

に興味を持ってくれて嬉しい」といった称賛のお言葉を多数いただいた。

また、11月28日（日）、12月5日（日）には、柏市田中近隣センターと柏市国際交流室のご協力を得て、柏ロッジにて、相談主事と柏インターナショナルオフィス共催で“和風製作イベント”を開催した。2日間で延べ17名の留学生や外国人研究員が参加し、柏市生涯学習推進員の方々と田中地域ふるさと協議会の方々の丁寧なご指導のもと、六角凧の製作に取り組んだ。



和紙に墨と絵具で絵柄を描き、竹の骨組みを貼っていく

留学生たちと地域の方々との交流も進み、数時間後には手本の図案に各国流のアレンジが加わった色とりどりの六角凧が完成した。

2011年1月30日（日）には、各自製作した和風を持参し、利根運河堤防で開催された“田中地域ふるさと協議会・新春凧揚げ大会”に参加した。



秋山浩保柏市長（中央）と柏ロッジ居住者たち

凧揚げ会場には甘酒や豚汁、つくたてのお餅の出店なども立ち並び、柏ロッジからの参加者たちも伝統的な日本のお正月イベントの雰囲気を楽しんだ。第25回大会という節目の大会ということで特設された国際交流特別賞は、マレーシアからの留学生に贈られた。

柏ロッジが開寮して一年。これからも居住者同士の交流会に加え、地域の方々のご協力を得ながら、居住者たちにとって研究の合間の気分転換になるような交流の機会を設けていきたいと思う。

海洋アライアンス

一般

女子中高生・女子大生を対象とした「海のプロフェッショナルー海洋学への招待状ー」出版記念セミナー開催

1月29日（土）、駒場キャンパス・学際交流ホールにて、「海のプロフェッショナルー海洋学への招待状ー」出版記念セミナーが、海洋アライアンスと日本財団の共催で開催された。中学から大学までの63名の女子学生に保護者・教員等を含め総参加者数は134名であった。

開始に先立ち、窪川かおる特任教授から、海洋の研究と仕事を持つ女性たちによる本、「海のプロフェッショナル（窪川かおる編／女性海洋研究者チーム著）」を女子中高生のための進路選択・職業紹介のテキストとして出版したことが紹介された。また海と関わる職業に就く女性のロールモデルを中高生・大学生が知る機会を設けることがセミナーの目的である旨の趣旨説明があった。本セミナーでは、以下のプログラムに示す3つのセッションが行われ、各セッション後の総合討論では参加者からの質問にも応じた。

演者自らの歩んできた道をわかりやすく伝えることが主であったためか、日頃の学会講演とは違い、進路を模索する後輩を思った熱のこもった発表ばかりであった。また、参加者も、学術発表の場で感じるのとはまたひと味違った真剣さで、元気さとするがすがしさを感ずるセミナーであった。

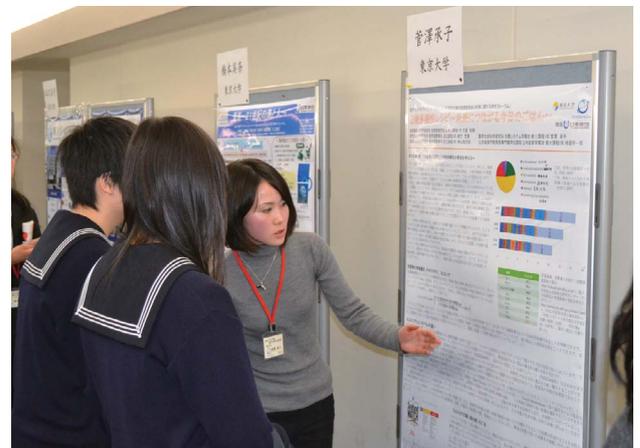
<プログラム>

セッション1 “海洋学の学生生活”

3名の現役大学院生やOGが、学生生活を紹介した。

セッション2 ポスター“海の研究、海の仕事”

15名の女子学生や女性研究者、また海に関連する仕事に就く女性たちが、ポスターで仕事内容を説明し、様々な質問に答えた。「直接話が聞けてよかった」と参加者に好評だった。



ポスター発表の様子

セッション3 “海を仕事にする”

海に関わる職場を選んだ女性が、実際の楽しさややりがいを具体的に披露した。

発表者の所属は多岐にわたり、学内では大気海洋研究所、農学生命科学研究科、理学系研究科、総合博物館、海洋アライアンス、学外では、海洋研究開発機構、日本海洋事業、商船三井、海上保安庁、新江の島水族館、海洋政策研究財団、しかたに自然案内、自治医科大学、名古屋大学高等研究院、日本大学生物資源科学部であった。



セッション3の総合討論の風景

閉会挨拶にはサプライズがあり、浦環海洋アライアンス機構長が演者一人ひとりのために花を持って登場され、本セミナーの意義を熱く語ってくださった。

閉会后、短い時間ではあったが進路相談会も開催され、熱心な学生が時間ギリギリまで質問する姿が見られた。



進路相談会で熱心に質問する参加者

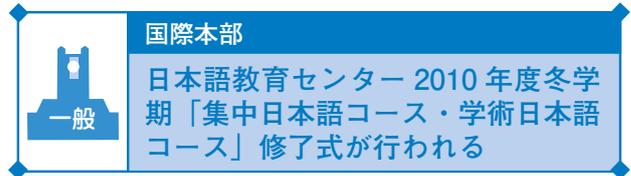
アンケートをみると、回答者は好意的に受け止めていたようである。生徒からは、「海に関連する職業に就くには様々な道があることがわかった」「海に関するいろいろな職業があることがわかり、熱意があれば道が開けることがわかった」という回答があった。また、保護者からも「日頃知らない場所で多くの女性ががんばっているのを知ることができた」「講演を聴いて元気をもらった」などの記述があった。さらに、「次に同様なセミナーがあったら是非参加したい」という回答も多かった。

主催者は今回の手応えを得て、次の企画を検討中であ

る。こうした機会を増やすことで、多くの女性が海をめざすことにつながることを期待される。

海洋アライアンスホームページ：

<http://www.oa.u-tokyo.jp/>



日本語教育センターの2010年度冬学期「集中日本語コース・学術日本語コース」修了式（修了証書授与式）が、2月18日（金）15時30分から赤門総合研究棟2階第200講義室で行われた。

「集中日本語コース」は、留学生在が1学期間集中的に日本語を学習するコースで、今期は、センターの前身組織から通算して51期目の修了生、また、本年4月に「日本語教育センター」に生まれ変わってからは2期目の修了生であった。今期は、初級から上級まで6クラス、併設の「学術日本語コース」（日本語で論文を書くための日本語スキルを身につけるコース）の2クラスを加えて計8クラス73名の受講者が10月に学習を開始し、このうち62名が所定の課程を修了してこの日を迎えたものである。



集合写真

式には、修了者のほか、田中明彦理事（副学長）をはじめ、来賓として修了者の指導教員等の先生方、佐藤修二国際部長及びセンター関係教職員が出席した。田中理事（副学長）から、挨拶の中で「今後も、日本語と、センターで得た友人を大切にしよう」とのアドバイスがあった後、菊地康人日本語教育センター長から、修了者一人ひとりに修了証書が手渡され、講評が述べられた。続いて、修了者を代表して、マルトー・アドリアンさん（フランス、初級代表）、カールソン・ラスムスさん（スウェーデン、中級代表）、プラニーナラート・タネートさん（タイ、上級代表）の3名から日本語によるスピーチがあり、約4か月間の日本語のすばらしい上達ぶりが披露された。

式終了後、引き続き山上会館で懇談会が行われた。懇談会では、指導教員を代表して、山川隆先生（農学生命科学研究科）と馬場章先生（学際情報学府）から、それぞれ、先生方の留学経験や海外出張経験を踏まえて、留

学生へのメッセージが送られた。さらに、留学生からのさまざまな思いをこめたスピーチや、教員を囲んでの撮影など、終始和やかな雰囲気の中に会は進行し、別れを惜しみつつ閉会の時を迎えた。

なお、今期の修了者62名の所属・出身は、以下のとおり、14研究科等、18の国または地域である。

■研究科等（14研究科等）

人文社会系研究科	2名
教育学研究科	1名
法学政治学研究科	4名
経済学研究科	1名
総合文化研究科	1名
理学系研究科	1名
工学系研究科	18名
農学生命科学研究科	3名
医学系研究科	6名
薬学系研究科	2名
数理科学研究科	1名
新領域創成科学研究科	4名
情報理工学系研究科	7名
学際情報学府	11名

■国または地域（18カ国・地域）

・アメリカ	3名
・チュニジア	1名
・イスラエル	1名
・トリニダードトバゴ	1名
・インドネシア	1名
・ブラジル	2名
・韓国	3名
・フランス	5名
・ギリシャ	2名
・ポーランド	1名
・シンガポール	1名
・マレーシア	4名
・スウェーデン	1名
・ミャンマー	1名
・タイ	5名
・ロシア	1名
・台湾	2名
・中国	27名



修了証の授与



修了者スピーチ

本部入試課
**平成 23 年度外国学校卒業学生特別
 選考の第 1 次選考合格者が決まる**

平成 23 年度外国学校卒業学生特別選考の願書受付は、第 1 種が 12 月 1 日(水)～12 月 8 日(水)、第 2 種が 11 月 1 日(月)～11 月 9 日(火)に行われた。

志願者数は、第 1 種(私費外国人留学生) 118 人、第 2 種(帰国生) 126 人、合計 244 人で前年度より 20 人増加した。

また、第 1 次選考の書類審査が行われ、1 月 21 日(金)に第 1 種 33 人、第 2 種 67 人、合計 100 人が合格し、各人あてに結果が通知された。第 2 次選考の小論文と学力試験は 2 月 25 日(金)・26 日(土)、面接試験は、3 月 17 日(木)に、合格者発表は 3 月 23 日(水)に行われる。

外国学校卒業学生特別選考第 1 次選考結果				
科 類	第 1 種 (私費外国人留学生)		第 2 種 (帰国生)	
	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数
文科一類	2	0	22	16
文科二類	42	11	30	16
文科三類	12	4	23	12
理科一類	46	12	31	12
理科二類	11	5	17	10
理科三類	5	1	3	1
合 計	118	33	126	67

なお、志願者の種別人数、国籍等(第 1 種)及び修学先の所在国名等(第 2 種)の内訳は、次のとおりである。

【第 1 種】

インドネシア	2 人
韓 国	33 人
台 湾	2 人
中 国	75 人
中国(香港)	1 人
カナダ	2 人
オランダ	1 人
ドイツ	1 人
ハンガリー	1 人
合 計	118 人

【第 2 種】

インドネシア	1 人
韓 国	5 人
シンガポール	3 人
タ イ	7 人
台 湾	2 人
中 国	26 人
フィリピン	3 人
マレーシア	1 人
オーストラリア	6 人
ニュージーランド	4 人
コロンビア	1 人
アメリカ	45 人
カナダ	3 人
イギリス	8 人
イタリア	1 人
スペイン	2 人
チェコ	2 人
ドイツ	3 人
フランス	3 人
合 計	126 人

本部入試課

第2次学力試験（前期日程・後期日程）の出願受付終わる

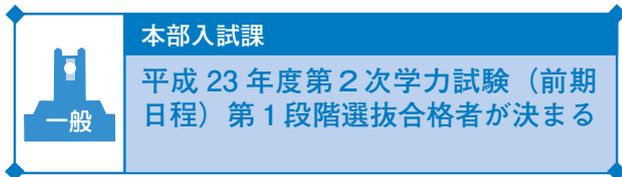
平成23年度第2次学力試験の願書受付が1月24日（月）から2月2日（水）の間、行われた。
志願者数は次のとおりである。

前期日程入学志願者数等

科 類	募集人員	志願者数	倍 率	前年度の倍率
文科一類	401	1,557	3.88	3.15
文科二類	353	1,194	3.38	3.24
文科三類	469	1,478	3.15	3.26
理科一類	1,108	2,930	2.64	2.74
理科二類	532	2,055	3.86	3.69
理科三類	100	565	5.65	5.03
合 計	2,963	9,779	3.30	3.19

後期日程入学志願者数等

科 類	募集人員	志願者数	倍 率	前年度の倍率
文科一類	100	2,967	29.67	31.37
文科二類				
文科三類				
理科一類				
理科二類				
理科三類				
合 計	100	2,967	29.67	31.37



平成23年度第2次学力試験(前期日程)の第1段階選抜が行われ、2月9日(水)午後、本郷地区キャンパス内において合格者が発表された。

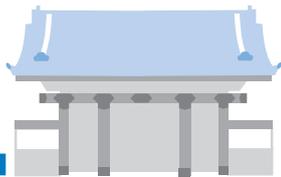
これにより、2月25日(金)・26日(土)に、本郷・駒場の両キャンパス試験場において行われる前期日程試験の受験者数が確定した。各科類の第1段階選抜合格者数は下表のとおりである。

前期日程試験第1段階選抜結果

科 類	募集人員	志願者数	倍 率	第1段階選抜		合格者科類別成績		
				合格者	予告倍率	最高点	最低点	平均点
文科一類	401	1,557	3.88	1,206	3.0	889	705	781.19
文科二類	353	1,194	3.38	1,066	3.0	887	738	786.46
文科三類	469	1,478	3.15	1,407	3.0	863	742	790.07
理科一類	1,108	2,930	2.64	2,772	2.5	881	729	792.75
理科二類	532	2,055	3.86	1,865	3.5	876	708	772.41
理科三類	100	565	5.65	401	4.0	881	727	805.14
合 計	2,963	9,779	3.30	8,717				

※大学入試センター試験成績は、900点を満点とする。

部局 ニュース



大学院総合文化研究科・教養学部

部局長の交代

平成 23 年 2 月 16 日より、下記のとおり、大学院総合文化研究科長・教養学部長の交代がありました。新部局長を紹介するとともに、退任された部局長のご挨拶を掲載します。

【新部局長】 長谷川 壽一

【前部局長】 山影 進

新部局長紹介

長谷川 壽一 教授

(平成 23 年 2 月 16 日～平成 25 年 2 月 15 日)



昭和 51 年 3 月

本学文学部卒業

昭和 53 年 3 月

本学大学院人文科学研究科

修士課程修了

昭和 59 年 4 月

本学教養学部助手

昭和 62 年 3 月

本学大学院人文科学研究科博士課程修了 (文学博士)

平成 3 年 10 月 本学教養学部助教授

平成 11 年 4 月 本学大学院総合文化研究科教授

所属：広域科学専攻

専門分野：進化心理学・進化人類学・動物行動学

- ・『進化と人間行動』(共著, 東京大学出版会, 2000 年)
- ・『言語と生物学』(編著, 朝倉書店, 2010 年)
- ・T E Currie, S J Greenhill, R D Gray, Toshikazu Hasegawa and R Mace, "Rise and fall of political complexity in island South-East Asia and the Pacific." *Nature* 467 (2010) : 801-804.

部局長退任の挨拶

退任で胸をよぎることども

前大学院総合文化研究科長・教養学部長
山影 進

学内行政に不慣れなせいで自ら招いた小過は多々あったものの、大過なく 2 年間の任期を全うできたのは、駒場の教職員はもちろん全学の多くの方々に支えられ、助けられてきたおかげと言う他ない。部局のむずかしい仕事は有能な副研究科長たちに任せてあるので全学の会議に顔を出してさえすれば良いと嘯いてきたが、無意識のうちに気疲れしていたようで、大任から解放されてほっとしている。

馬子にも衣装とばかりに就任直前に買ったスーツの出番は思っていたほど多くなくて済んだが、ネクタイで自分の首を絞めるのは上手になった。式典でアカデミック・ガウンを着させられるのにも閉口した。もっとも、留学先の大学から学位取得の記念にもらったフードにとっては、筆筒の底で朽ちる間際の晴れ舞台だったに違いない。

拙い言動を省みると、駒場キャンパスの存在を印象づけることに夢中だった。『行動シナリオ』に象徴される濱田総長のイニシアティブの中でも、特にキャンパスの国際化や真の教養を備えたタフな学生作りは駒場にとって大きな挑戦となった。教養学部の英語コース構想は、おかげさまで本部や多くの部局のご支援をいただいて着々と具体化しつつある。

この 2 年間、文字通りの管見ではあったが、重要な節目の折々で東京大学の良心を垣間見ることができたのは本当に貴重な経験だった。それはさておき、我知らず周囲に迷惑をかけたおしだったのではないかと恐れている。お詫びの気持ちを込めつつ、今までお世話になった皆様に御礼申し上げます。多謝。



退職教員の紹介

大学院医学系研究科・医学部

数間 恵子 教授

(本学在職期間：平成 11 年 8 月～平成 23 年 3 月)



昭和 48 年 3 月
聖路加看護大学卒業
昭和 51 年 3 月
本学大学院医学系研究科保健学専門課程修士課程修了(保健学修士)
昭和 51 年 4 月
国家公務員共済組合連合会
虎の門病院 看護師

昭和 52 年 7 月 千葉大学看護学部 助手
平成 1 年 12 月 保健学博士 (東京大学)
平成 4 年 4 月 社会保険船橋中央病院 保健師
平成 6 年 4 月

東京医科歯科大学医学部保健衛生学科 助教授
平成 10 年 6 月

東京医科歯科大学医学部保健衛生学科 教授
平成 11 年 8 月 本学大学院医学系研究科 教授

所属：健康科学・看護学専攻 成人看護学分野

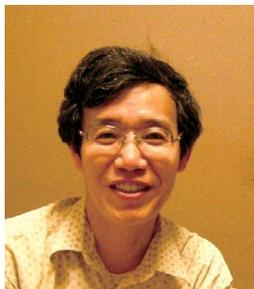
専門分野：成人看護学、慢性看護学

研究内容 (代表的な著書・論文等)：

- ・永井良三監修，数間恵子，菅田勝也，小出大介編集『Nursing Informatics 看護と情報科学』杏林図書，2006 年。
- ・Keiko Kazuma. "Psychosocial and Physical factors influencing dietary behavior and the recovery of muscle mass in Japanese patients after gastrectomy for cancer." *Jpn J Health Hum Ecol* 60, 6 (1994):342-54.

山崎 喜比古 准教授

(本学在職期間：昭和 59 年 2 月～平成 23 年 3 月)



昭和 51 年 3 月
本学医学部保健学科卒業
昭和 58 年 3 月
本学大学院医学系研究科保健学専攻博士課程修了、保健学博士取得
昭和 59 年 2 月
本学医学部保健学科助手

平成 5 年 7 月 本学医学部保健学科助教授

平成 8 年 4 月 本学大学院医学系研究科准教授

所属：健康科学・看護学専攻 健康社会学分野

／公共健康医学専攻 健康教育・社会学分野

専門分野：健康社会学、保健医療社会学、ヘルスプロモーション健康教育学、産業ストレス科学

研究内容 (代表的な著書・論文等)：

- ・山崎喜比古 共編著『薬害 HIV 感染被害者遺族の人生』東京大学出版会，2008 年。
- ・Yoshihiko Yamazaki, T. Togari and J. Sakano. Toward Development of Intervention Methods for Strengthening the Sense of Coherence (SOC) : Suggestions from Japan. In T.Muto, et al. eds: Asian Perspectives and Evidence on Health Promotion and Education, Springer, 2010.

大学院工学系研究科・工学部

内藤 廣 教授・副学長

(本学在職期間：平成 13 年 4 月～平成 23 年 3 月)



昭和 49 年 3 月
早稲田大学理工学部建築学科卒業
昭和 51 年 3 月
早稲田大学大学院修士課程修了
昭和 56 年 6 月
内藤廣建築設計事務所所長

平成 13 年 4 月 本学大学院工学系研究科助教授

平成 14 年 12 月 本学大学院工学系研究科教授

平成 22 年 2 月～平成 23 年 3 月

副学長 (キャンパス計画担当)

所属：社会基盤学専攻

専門分野：建築デザイン・景観デザイン

研究内容 (代表的な著書・論文等)：

- ・内藤廣『構造デザイン講義』王国社，2008 年。

大学院農学生命科学研究科・農学部

小川 和夫 教授

(本学在職期間：昭和 50 年 6 月～平成 23 年 3 月)



昭和 47 年 4 月
本学農学部水産学科卒業
昭和 49 年 3 月
本学大学院農学系研究科水産学専門課程修士課程修了
平成 5 年 7 月
本学農学部助教授
平成 13 年 6 月
本学大学院農学生命科学研究科教授

平成 21 年 4 月～平成 22 年 3 月

本学農学部副学部長、副研究科長

所属：水圏生物科学専攻 水圏生産環境科学講座
魚病学研究室

専門分野：魚病学、水産増養殖学、魚類寄生虫学

研究内容 (代表的な著書・論文等)：

- ・小川和夫『魚類寄生虫学』東京大学出版会，2005 年。
- ・Kazuo Ogawa, S. Tanaka, Y. Sugihara and I. Takami. "A new blood fluke of the genus *Cardicola*

(Trematoda: Sanguinicolidae) from Pacific bluefin tuna *Thunnus orientalis* (Temminck & Schlegel, 1844) cultured in Japan.” *Parasitology International* 59, no. 1 (2010) : 44-48.

大学院経済学研究科・経済学部

小林 孝雄 教授

(本学在職期間：昭和54年9月～平成23年3月)



昭和46年6月
本学工学部計数工学科卒業
昭和48年6月
本学大学院経済学研究科
経営学専門課程修士課程修了
昭和53年8月
本学大学院経済学研究科
経営学専門課程博士課程退学

昭和53年1月

スタンフォード大学経済学部大学院修了

昭和54年9月 本学経済学部助教授

平成3年3月 本学経済学部教授

平成8年4月 本学大学院経済学研究科教授

所属：金融システム専攻 金融経済学講座

専門分野：資産運用理論、フィナンシャル・エンジニアリング、金融システム理論

研究内容（代表的な著書・論文等）：

- ・小林 孝雄, 芹田敏夫『新・証券投資論』日本経済新聞出版社, 2009年.
- ・Takao Kobayashi, A. Takahashi and N. Tokioka. “Dynamic Optimality of Yield Curve Strategies.” *International Review of Finance*, Vol. 4, No. 1/2 (2003) : 49-78.

大学院総合文化研究科・教養学部

村田 純一 教授

(本学在職期間：平成3年4月～平成23年3月)



昭和47年3月
本学教養学部教養学科
科学史及び科学哲学分科卒業
昭和49年3月
本学大学院理学系研究科
科学史・科学基礎論修士課程修了

昭和55年3月

本学大学院理学系研究科 科学史・科学基礎論博士課程単位取得退学

昭和55年4月～昭和56年3月

本学教養学部教養学科ドイツ分科助手

昭和56年7月 東洋大学文学部専任講師

昭和59年4月 東洋大学文学部助教授

平成3年4月 本学教養学部助教授（科学史・科学哲学）

平成8年4月 本学大学院総合文化研究科助教授

平成8年11月 本学大学院総合文化研究科教授

所属：広域科学専攻・相関基礎科学系・
科学技術基礎論大講座

専門分野：現象学・科学哲学

研究内容（代表的な著書・論文等）：

- ・村田純一『色彩の哲学』岩波書店, 2002年.
- ・村田純一『技術の哲学』岩波書店, 2009年.

渡會 公治 准教授

(本学在職期間：昭和63年4月～平成23年3月)

昭和50年3月 本学医学部医学科卒業

昭和50年6月 医師免許取得、整形外科教室で研修

昭和58年7月 帝京大学医学部講師

昭和63年4月 本学教養学部保健体育科助教授

昭和64年4月 本学保健センター整形外科非常勤兼務

平成6年4月

本学大学院総合文化研究科助教授

平成19年4月

本学大学院総合文化研究科准教授

所属：広域科学専攻、生命環境科学系、
身体運動科学研究室

専門分野：身体運動科学、スポーツ医学

研究内容（代表的な著書・論文等）：

- ・渡會公治『美しく立つ』文光堂, 2007年.
- ・渡會公治「ピッチングによる肩肘損傷予防とバイオメカニクス」『日本臨床スポーツ医学』18 (2001年) 25-32.

大学院教育学研究科・教育学部

田中 千穂子 教授

(本学在職期間：平成9年4月～平成23年3月)

昭和53年3月 横浜国立大学教育学部卒業

昭和55年3月

東京都立大学大学院人文科学研究科修士課程心理学専攻修了

昭和58年3月

東京都立大学大学院人文科学研究科博士課程心理学専攻満期退学

平成2年12月 文学博士（東京都立大学）

平成9年4月 本学大学院教育学研究科講師

平成12年1月 本学大学院教育学研究科助教授

平成16年4月 本学大学院教育学研究科教授

所属：臨床心理学コース

専門分野：臨床心理学

研究内容（代表的な著作・論文等）：

- ・田中千穂子『母と子のこころの相談室』医学書院, 1993年.
- ・田中千穂子「乳幼児－親心理療法（infant-parent psychotherapy）の一例 家族関係の変容を導くために」『心理臨床学研究』15.5. (1998年)

大学院情報理工学系研究科

米澤 明憲 教授

(本学在職期間：平成元年10月～平成23年3月)



昭和45年3月

本学工学部計数工学科卒業

昭和47年3月

本学大学院工学系研究科計数

工学専門課程修士課程修了

昭和53年2月

ドクター・オブ・フィロソ

フィー (米国マサチューセツ

ツ工科大学)

昭和53年11月 工学博士 (東京大学)

昭和58年3月 東京工業大学理学部助教授

平成元年10月 本学理学部教授

平成18年4月 本学情報基盤センター・センター長

所属：コンピュータ科学専攻

専門分野：オブジェクト指向プログラミング言語、分散
コンピューティングおよび情報セキュリティ

研究内容 (代表的な著書や論文等)：

- ・ Akinori Yonezawa, ed. *ABCL: An Object-Oriented Concurrent System*. Cambridge, Massachusetts: MIT Press, 1990. 329pages.
- ・ Akinori Yonezawa, Jean-Pierre Briot, and Etsuya Shibayama. "Object-Oriented Concurrent Programming in ABCL/1." In Proceedings of the Conference on Object-Oriented Programming Systems, Languages, and Applications (OOPSLA'86), Portland, Oregon, November 1986: 258-268.

辻井 潤一 教授

(本学在職期間：平成7年7月～平成23年3月)



昭和46年3月

京都大学工学部電子工学科
卒業

昭和48年3月

京都大学大学院工学研究科
修士課程電気工学専攻修士
課程修了

昭和53年9月

工学博士 (京都大学)

昭和48年4月 京都大学工学部助手

昭和54年6月 京都大学大学院工学研究科助教授 (工
学部 兼担)

昭和56年6月
CNRS (Center National de la Recherche
Scientifique、フランス) 招聘上級研究員

昭和63年11月 マンチェスター大学教授

平成4年3月

マンチェスター大学計算言語学センター センター長
平成7年7月

本学大学院理学系研究科教授 (本学理学部 兼担)

平成12年5月 本学大学院学際情報学府教授

平成13年4月

本学大学院情報理工学系研究科教授

平成15年4月

本学大学院情報学環教授、本学大学院学際情報学府教
授

平成16年4月 本学大学院情報学環教授

平成17年7月

マンチェスター大学教授、英国国立テキストマイニン
グセンター、センター長 (兼業)

平成18年4月

本学大学院情報理工学系研究科教授

平成20年3月

英国国立テキストマイニングセンター、研究担当ディ
レクター (兼業)

平成21年4月 本学大学院情報学環教授

平成23年3月

本学大学院情報理工学系研究科教授

所属：コンピュータ科学専攻

専門分野：自然言語処理、テキストマイニング

研究内容 (代表的な著書・論文等)：

- ・ 辻井潤一『知識の表現と利用』昭晃堂出版, 1987年.
- ・ Junichi Tsujii. "Future Directions of Machine Translation." *Proceedings of the 11th conference on Computational linguistics* (1986) : 655-668.

武市 正人 教授

(本学在職期間：1972年4月～1977年7月、
1987年4月～2011年3月)



1970年3月

本学工学部卒業

1972年3月

本学大学院工学系研究科
修士課程修了

1987年

工学博士 (東京大学)

1972年4月

本学工学部助手

1976年6月 本学工学部講師

1977年8月 電気通信大学講師

1982年4月 電気通信大学助教授

1987年4月 本学教育用計算機センター助教授

1993年1月 本学工学部教授

2001年4月 本学大学院情報理工学系研究科教授 (現職)

1996年3月～1999年3月 本学教育用計算機センター長

2004年4月～2007年3月

本学大学院情報理工学系研究科長

所属：数理情報学専攻・数理情報学応用講座

専門分野：ソフトウェア科学

研究内容 (代表的な著書・論文等)：

- ・ 武市正人『プログラミング言語』岩波書店, 1994年.
- ・ Masato Takeichi. "Partial Parametrization Eliminates

Multiple Traversals of Data Structures.” *Acta Informatica* 24, No. 1 (1987) : 57-77.

大学院公共政策学連携研究部・教育部

金本 良嗣 教授

(本学在職期間：昭和 63 年 10 月～平成 23 年 3 月)



昭和 47 年 3 月
本学経済学部経済学科卒業
昭和 48 年 3 月
本学経済学部経営学科卒業
昭和 52 年 8 月
Ph.D. (コーネル大学)

昭和 52 年 7 月

加国ブリティッシュ・コロンビア大学経済学部助教授

昭和 55 年 8 月 筑波大学社会工学系助教授

昭和 63 年 10 月 本学経済学部助教授

平成 4 年 8 月 本学経済学部教授

平成 8 年 4 月 本学大学院経済学研究科教授

平成 16 年 4 月 本学大学院公共政策学連携研究部教授
(兼務：大学院経済学研究科)

平成 20 年 4 月～平成 22 年 3 月

本学大学院公共政策学連携研究部長

所属：公共政策学専攻

専門分野：都市経済学 公共経済学 交通経済学

研究内容 (代表的な著書・論文等) :

- ・ Yoshitsugu Kanemoto. *Theories of Urban Externalities*. North-Holland: Elsevier Science Ltd, 1980.
- ・ Yoshitsugu Kanemoto. “Hedonic Prices and the Benefits of Public Projects.” *Econometrica* 56, (1988) : 981-989.

社会科学研究所

仁田 道夫 教授

(本学在職期間 1978 年 4 月～1980 年 3 月,

1990 年 4 月～2011 年 3 月)



1971 年 6 月
本学経済学部卒業
1974 年 3 月
本学経済学研究科修士課程
修了
1978 年 3 月
本学経済学研究科博士課程
単位取得後退学

1989 年 7 月 経済学博士 (東京大学)

1990 年 4 月 本学社会科学研究所助教授

1993 年 4 月 本学社会科学研究所教授

2001 年 4 月～2005 年 3 月 本学社会科学研究所長

所属：社会調査・データアーカイブ研究センター

専門分野：労使関係・労務管理の調査研究

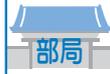
研究内容 (代表的な著書・論文等) :

- ・ 仁田道夫『変化のなかの雇用システム』東京大学出版

会, 2003 年.

- ・ 仁田道夫「企業別組合に何ができるか:歴史から学ぶ」『日本労働研究雑誌』591 号 (2009 年) : 4-14.

大学院総合文化研究科・教養学部



駒場 I キャンパスで「研究科長と留学生との懇談会」開催される

1 月 26 日 (水) 18 時 30 分より、駒場コミュニケーションプラザ南館 2 階において、「平成 22 年度総合文化研究科長・教養学部長及び数理学研究科長と外国人留学生との懇談会」が開催された。

この会は、駒場 I キャンパスで学ぶ留学生と教職員とが一堂に会し、懇談を通じて、交流と相互理解を深めることを目的として毎年開かれているものである。当日は留学生、チューターや教職員合わせておよそ 150 名の参加があり、昨年度に並ぶ参加者数となった。

懇談会は、後藤則行教養学部国際交流・留学生委員会委員長の開会の辞で始まり、主催者である山影進総合文化研究科長・教養学部長と大島利雄数理学研究科長の挨拶ののち、小島憲道国際センター長 (理事・副学長) の挨拶があり、その後石井洋二郎総合文化研究科副研究科長の発声で乾杯、にぎやかな懇談がはじまった。

途中、教養学部 2 年のヘルシン・デービトさん (スウェーデン)、総合文化研究科修士 1 年の陳佳さん (中国) のスピーチがあった。勉学の内容や研究科への要望、日本での日常生活に関してなど、スピーチの内容は多岐にわたり、彼らが着実に勉学・研究を進めているさまが窺えた。

また、総合文化研究科修士 2 年のアマギ・ウメヤマ・ノエミさん (パラグアイ) が、出身国の音楽に乗せてダンスを披露し、会場からは喝采の声が上がった。

今年も生協の協力を得て、会場で餅つきが行われた。多くの留学生が積極的に参加し、交代で杵を持ち、餅つきを楽しんでいた。つきたての餅をほおぼりながら交流の輪がひろがった。

会は盛況のうちに、嶋田正和総合文化研究科副研究科長の閉会の辞をもって、20 時 30 分過ぎに閉会した。



(左) 留学生によるスピーチ (ヘルシン・デービトさん)
(右) 留学生によるスピーチ (陳佳さん)



(左) 留学生によるダンス (アマギ・ウメヤマ・ノエミさん)
(右) 餅つきの様子

大学院工学系研究科・工学部

工学系研究科共通科目「創造性工学プロジェクト」でラリー・モンテカルロ・ヒストリックを総合 42 位完走

大学院工学系研究科共通科目「創造性工学プロジェクト」及び工学部共通科目「創造的ものづくりプロジェクト」のテーマの一つである「ヒストリックモンテ参戦プロジェクト」(担当; 草加浩平特任教授)では第14回ラリー・モンテカルロ・ヒストリックに出場し、参加 322 台、出走 304 台中、歴代日本人エントラント最上位となる総合 42 位で完走した。



モンテカルロに感動のゴール
(撮影; WRP/清木博志)

この競技は1月27日(木)にイギリス・グラスゴーをスタートし、2月2日(水)にモナコ・モンテカルロにゴールする総行程約 3,500km の長距離ラリーである。数カ国を通過する国際的長距離ラリーであるため、十分な準備をした上でも生じる筋書きのないトラブルを現場で解決することが重要なラリーである。



路上での緊急整備も無事こなす

当授業はものづくり教育と国際化教育の融合が狙いである。そのために、自動車整備士養成学校の一つである関東工業自動車大学校と合同チームを組み、世界有数の国際ラリー大会出場というテーマを選んだ。授業の狙いは、本気度の高い異文化接触による国際化教育、産業界と接触しつつ 1973 年製の古い車を学生の手で直すことによる創造的ものづくりセンスの獲得、そして自動車整備士専門学校と共同作業を行うことでコミュニケーション能力を高めるという三つである。

実際に学生は、海外での真剣勝負という緊張感を経て、海外活動における意識や取り組み姿勢が変化した。世界中から集まった競技者との交流から、世界における日本の印象や立ち位置を肌で感じる事が出来た。



現地では多くのメディアに取材を受けた

運営費調達には東大生が担当し、飛び込み営業で活動資金を獲得した。教育に関心のある企業には、特別講義を開いてもらうなど、貴重な勉強の機会を頂いた。

今回は自動車整備士専門学校と合同チームを組み、現場や作業内容が異なるが故に起きる軋轢も解決した。社会人になった時、この経験が大いに活かされるであろう。

このように、当ヒストリックモンテ参戦プロジェクトは、単なるものづくり教育に加え、国際化及び異分野の融合という貴重な経験を学生達に与え、新しい教育の形として成果を取めることができた。関係各位に謝意を表したい。

地震研究所

霧島に臨時観測室設置

地震研究所では、1月26日に爆発的噴火をした霧島山新燃岳の火山観測を効率的に行い、観測結果を防災情報に活かす目的で、2月8日に臨時観測室を設置した。

新燃岳の噴火により地震研究所霧島火山観測所（宮崎県えびの市）では、従来からの観測に加え、重力計や傾斜計、空振計を広い範囲にわたり新たに設置するなど観測を行っている。噴火により空港から観測所への道が警戒区域になりアクセスが不便になったこともあり、地震・火山科学の共同利用・共同研究拠点として、全国大学の火山関係研究者の観測研究を効率的に行うために、霧島市のご協力により霧島総合支所に臨時観測室を設置した。観測室からは、活動中の新燃岳を正面に見る事ができるようになり、また火山噴火予知連絡会の下に組織された総合観測班（同支所内）と情報を共有しながら、効率的な観測活動を行っていくことにしている。

火山関係の教員・研究者、技術職員に加え事務職員も交替で臨時観測室に派遣し、地震研究所の「霧島山（新燃岳）噴火調査連絡本部」との連絡や全国の大学から観測にみえる研究者の受け入れの支援を行っている。



臨時観測所から見た18日の噴火



平田所長、中田副所長（総合観測班幹事）、小川原事務長が訪れ、総合観測班（気象庁）と連絡事項確認を行う

大学院教育学研究科・教育学部

附属バリアフリー教育開発研究センター主催国際シンポジウム『人と人との間のバリアフリー』開催

2月19日（土）、教育学研究科附属バリアフリー教育開発研究センター主催、「教育における「力」の概念に関する学際的研究」研究会（「ちから研」）及び東京大学バリアフリー支援室共催、並びにベネッセコーポレーション協賛により、国際シンポジウム『人と人との間のバリアフリー』が福武ホールラウンジシアターで開催された。バリアフリー教育開発研究センターは2009年4月に設立され、同年6月の市民公開フォーラム『教育のバリアフリー、そしてバリアフリーの教育』に次いで、今回のシンポジウムは2度目の大きな催しとなる。当日は、主催・共催・協賛団体の関係者のほか、バリアフリーに関わる学術研究及び実践に関心を持つ多くの一般参加者が集い、計175名を集めた熱気のこもったイベントとなった。

シンポジウムは、小島憲道理事（副学長）の祝辞に続き、白石さやセンター長の挨拶によって開会した。基調講演では、障害学会初代会長の石川准静岡山県立大学教授より、様々な技術開発を通じて情報アクセシビリティを高めていく試みが紹介され、バリアフリー社会の実現に向けて法的・制度的アプローチが重要であることも提言された。

パネルディスカッションの第一部「障害とアイデンティティ」では、エール大学カレン・ナカムラ助教授による挑戦的な映像を混じえた文化人類学的視点からの講演と、当センター星加良司講師の社会学的視点からの講演が行われ、「遊び（play）」によって健常者社会の規範を揺さぶる営みの可能性について議論が交わされた。質疑応答では、会場から活発な問題提起が行われ、基調講演者の石川教授からは、障害者が自らの役割を引き受けて社会に対して発言を行うことは、障害者自身に関する問題を越えて普遍的な意義を持ちうるという点が改めて強調された。

休憩の時間には、2010年度ゴールドコンサートグラプリ受賞者の穴澤雄介氏・高木将雄氏によるヴァイオリンと打楽器の美しい音色が会場を包んだ。両氏の洗練された力強い演奏を通じて、音楽という表現が持つ実践的な可能性が、会場全体に共有された。

パネルディスカッション第二部「表現とバリアフリー」では、NPO 法人日本バリアフリー協会代表理事の貝谷嘉洋氏とスウェーデン・カロリンスカ研究所グネル・バッケンロス教授から、障害を生きること、及び障害者の心理的なケアに関する講演が行われ、バリアフリーをめざした実践的な取り組みについて、経験に基づく具体的な提案がなされた。シンポジウムは、南風原朝和教育学研究所教授の総括的な挨拶をもって、盛況のうちに閉会した。

バリアフリー教育開発研究センターでは、バリアを生み出す文化的社会的な実践についての知的探求を目的として、4月から学部横断型教育プログラムを開講する。誰もが生活しやすいバリアフリー社会を構想し、それを実現していくための知見を創出し、共有する場を提供していく予定である。(バリアフリー教育開発研究センターのサイト：<http://www.p.u-tokyo.ac.jp/cbfe/>)



白石さやセンター長による開会挨拶



パネルディスカッションの様子



カレン・ナカムラ氏による講演と通訳者たち

物性研究所 第7回物性研技術発表会開催される

2月25日(金)物性研究所6階講義室において、第7回物性研技術発表会が開催された。口頭発表9件、ポスター発表7件、計16件の発表があり、58名の参加者があった。特に今回は物性研の外部から聴講に来て下さった方が多数あった。その内訳は、学外から高エネルギー加速器研究機構4名、大阪大学1名、東北大学2名、日本電気(NEC)1名、学内からは宇宙線研究所8名、大気海洋研究所2名、低温センター2名、理学系研究科3名、工学系研究科5名、物性研究所内30名であった。日頃の技術職員の業務や失敗談、苦労話、研究開発の成果など、技術発表会ならではの発表があり、参加者からも活発に質問、意見が出され大盛況であった。

夕方からは懇親会が催され、研究所内の技術職員同士、また本学他部局や他大学の技術職員との意見交換が行われた。終始和やかな雰囲気の中、大成功のうちに終了した。



技術発表会 会場の様子(物性研究所講義室)

教育学部附属中等教育学校では、科学技術振興機構 (JST) の支援を受け、理科 (物理分野と化学分野) の高大連携講座を企画・実施した。昨年度から理学系研究科との連携体制を構築し、今年度も理学系研究科に講師の推薦をお願いした。他にも工学系研究科や総合文化研究科からの協力も頂き、物理分野 3 講座、化学分野 1 講座を開講した。

【物理分野①】「素粒子と宇宙～現代物理の最先端を体験する～」という題目で、理学系研究科の牧島一夫教授と理化学研究所仁科加速器研究センターの酒井英行所長から宇宙物理の最先端を学び、理化学研究所仁科センターのサイクロトロンを見学させて頂いた。生徒には難しい内容も多かったが、物理学研究の最先端に触れられる刺激的な機会となった。

【物理分野②】「身近な材料で学ぶ橋の構造力学～パスタブリッジコンテスト～」という題目で、工学系研究科の泉聡志准教授に講義と実習をお願いした。生徒は橋の構造力学について学んだ後、パスタを使って強い橋の模型をつくり強度を測定した。生徒は試行錯誤をしながら楽しく学び、実習をしていた。

【物理分野③】「RLC 共振回路を利用した科学技術探求」という題目で、総合文化研究科の福島孝治准教授に RLC 回路について実験を交えた講義を行って頂いた。生徒はラジオや発信器の構造を見抜き、実際に回路を作製した。創造力を働かせながらより発展的な学習ができた。

【化学分野】「新しい物質・材料の創製」という題目で、理学系研究科の長谷川哲也教授と小澤岳昌教授から色素増感太陽電池やサーモクロミズム、発光と蛍光などを学んだ。高校ではあまり扱わない器具や高度な合成もあり、生徒は慣れない手つきで懸命に実習に取り組んでいた。

講座にかかる経費は全額 JST から支援を受け、1 月に事後学習も含めてすべて無事終了した。来年度以降も附属学校では引き続き理学系研究科をはじめ、他研究科・施設との連携講座を実施していきたい。



「素粒子と宇宙」(左)
「身近な材料で学ぶ橋の構造力学」(右)



「RLC 共振回路を利用した科学技術探求」(左)
「新しい物質・材料の創製」(右)

特集の記事を執筆してみませんか？

学内広報では巻頭特集の記事テーマとその執筆部署を募集しています。皆さんの部署でも、ぜひ特集の記事を執筆してみませんか？

1. 制作方法

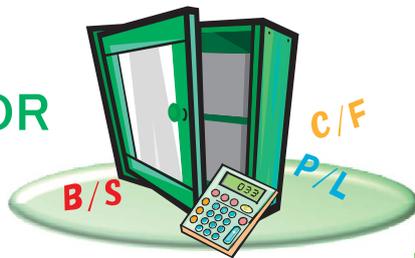
- ① テーマの選定
全学の教職員を読者対象とするテーマを選定。まずは、本部広報課に気軽にご相談ください。
 - ② 内容・構成の決定
執筆部署と学内広報編集スタッフ（以下、編集スタッフ）の打ち合わせでページ内容を決定します。
 - ③ 原稿の執筆
決定した構成に合わせて執筆部署に原稿を書いていただきます。
 - ④ ビジュアル要素の提供
写真・図・イラストを提供していただきます。
 - ⑤ デザイン
執筆部署を中心に打ち合わせながらページデザインを作ります。
 - ⑥ 校正
文字校正を行なっていただきます。
 - ⑦ 完成
刷り上がった学内広報は執筆部署に多めに配布します。
2. 締切日
期日を申しますので、ご協力をお願いします。

3. 問い合わせ先・原稿提出先

本部広報課 広報企画チーム
TEL：03-3811-3393 内線22031
E-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

決算のDOOR

～数字が語る
東京大学



第6回 タダ得？損させ？情報の開示

早いもので22年度もそろそろオシマイ。いよいよ決算書の作成時期がやってきました。

決算書はその時の財政状況が一目でわかる通信簿や健康診断書のようなもの。お金がいくら入って何に使ったか、残った財産と借金はどれくらいかといった、1年間に実際に起きたことが見てわかるようになっていきます。これは国立大学法人も民間企業も同じ。ただし、企業の決算書が株主や取引先など利害関係者への報告書であるのに対し、国から交付金や設備をいただいている国立大学法人は、納税者、つまり国民のみなさまが相手になります。そのため東京大学が、「1年間使った費用」だけではなく、「1年間使わずに済んだ費用」、これも忘れずに報告しなければならないのです。

例えば、国や地方公共団体の土地や建物などを無料もしくは通常より安く借りた報告書もその一つ。ただしこの報告書、国や地方公共団体がもし有料で東大に貸していたら、一体どれくらいの賃料や利息が得られたか、つまり国民のみなさまにいくら損をさせたかを報告するのであって、「えっへん！こんなに借りたのにぜ～んぶタダ。すごいでしょ♪」というアピールではありません。このように「ある行為（東大へタダで貸す）をすることで、利益を得る機会を失うこと」を会計では「機会費用（opportunity cost）」と呼んでいます。

さて、東京大学の「機会費用」は、年間約1億5千万円。その9割は職員宿舎（建物）の賃貸料ですが、圧倒的に件数が多いのが全国各地に散らばる地震観測点の設置用地です。

一般に地震観測点は、地震計、観測装置、通信ケーブル等で構成されています。観測所を伴う大がかりなものから、局舎に収容された簡易なもの、屋根もなく雨ざらしのもの、果ては海底に設置されたものまで、規模もタイプも様々です。例えば、現在地震研究所では「首都直下地震防災・減災特別プロジェクト」の一環として関東地方の小中学校などに地震計を設置していますが、必要な土地はわずか2.25㎡。それでも塵も積もれば山、です。「学術研究のため」「少額のため」「公益性が高いため」無料になった土地は全国あわせて219か所、3万5千㎡で、賃貸料年間400万円程と見積もることができます。



弥生キャンパスの観測点
地震計は20m地下に埋め
られています



旧型の海底地震計は長さ2.2mと巨大ですが、現在は長さわずか10cmと超小型（地震研究所1号館）

国民のみなさまには少々損かもしれませんが、それでも来たる地震に備え、少しでも大地の動きをとらえようと、今日も日本全国沢山の地震計が、じっと耳をすませているのです。（青）

このコラムへのご意見、ご質問をどしどしお寄せ下さい。お待ちしております！

本部財務部決算課（内線22129）
E-mail: kessanka@ml.adm.u-tokyo.ac.jp



科学技術インタープリター養成プログラム

国際化学年によせて

黒田 玲子

総合文化研究科 教授
教養学部附属教養教育高度化機構
科学技術インタープリター養成部門長

今年は国際化学年で、世界中で様々な関連行事が予定されている。化学は我々の生活と密接な関係がある。身の周りには天然物だけでできているものは少なく、プラスチック製品、化学繊維、染料、洗剤、エアコンの冷媒、医薬品等々、すべて化学工業の産物である。これらなくしては、現在の我々の生活は成り立たない。ところが世の中では、「化学物質」は悪いものと決め付けられているようだ。新聞の広告に『化学物質ゼロの化粧品』と出ていたときには、びっくりしてしまった。我々の体も化学物質からできている。真空の化粧品？とまぜっかえしたくなる。どうやら、化学物質とは合成されたものということらしい。つまり、天然のものはよいが、合成されたものは悪ということらしい。しかし、天然物でも合成物質でも、毒となるものも薬となるものもある。ビタミンCはアスコルビン酸という化学物質であるが、レモンの中のものも、実験室で合成したものも、化学物質としてはまったく同じものなのだが。我々の日常生活を便利、豊かにしてくれるだけではなく、化学は生命現象や物理現象の分子レベルでの解明にも、重要な役割を果たしている。

国際化学年にちなみ、「化学かるた 元素編」なるものが作られたと、ネットに載っていた。以前「1家に1枚周期表」というキャンペーンがあり、在庫がなくなるほど人気でたと聞いたが、同様の発想であろう。こういった活動を通して、人々が元素、化学物質、ひいては化学を身近に感じるようになってくれるとありがたい。科学技術インタープリターの活躍の場である。

国際化学年は、ラジウムとポロニウムの発見に対してマリー・キュリーに与えられたノーベル化学賞100周年を記念している。ノーベル財団は2001年のノーベル賞100周年記念に記念ポスターを作製したが、物理学賞はアインシュタイン、化学賞はマリー・キュリーの顔写真が中央に大きく載っていた。このように、マリー・キュリーは、化学の顔といえる存在となった。当時のフランスでは、女性が一人前の科学者として認識されることなど、まったくなかった。にもかかわらず、夫とともに放射能の研究でノーベル物理学賞を、さらに、夫の不慮の死後も数々の不遇を超えて大きな成果を挙げノーベル化学賞を受賞、ソルボンヌ大学の教授ポストを得た。第1次大戦中のレントゲン撮影設備普及への努力も忘れてはならない。すべてが、彼女の資質、志、不屈の精神の結実であり、女性に限らず、科学者すべてのロールモデルであろう。

国際化学年の今年は化学や女性研究者の活躍を推進するまたとない機会である。インタープリターの活躍を期待している。

★科学技術インタープリター養成プログラム
<http://science-interpreter.c.u-tokyo.ac.jp/>

Crossroad:
交差道路や、道が交差するところにある集会場を意味します。産業界と研究者のクロスする場所の意味をこめます

Welcome to our society

アンビエント 社会基盤研究会

<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/ambient/index.html>

Prologue

科学技術交流フォーラムからの産声

事業的に閉塞感がある日本のIT産業に対し、将来の情報通信技術(ICT)による新たな社会像を描き、その社会、市場に向けてのロードマップを描こうということで、2010年1月、「アンビエント・エレクトロニクスがもたらす情報社会の変革」をテーマに、企業に向けて科学技術交流フォーラムを開きました。これはこの数年、有機デバイスを代表に、急速に私たちの生活空間に現れ、身の周りに存在し始め

たセンサー、ディスプレイなどのアンビエント・エレクトロニクスによりヒューマン・セントリックな情報社会の実現へ向けて、研究技術を紹介したフォーラムです。結果、企業側の関心が非常に高くフォーラムの参加者を中心に研究会を開く運びになりました。

Start-Up

イノベーション創出を促進

研究会の立ち上げは2010年9月、研究会の名称はエレクトロニクスを包含した「アンビエント社会基盤研究会」に設定

しました。メンバーは、日本を代表するICTにおける代表的な企業メンバー14社と、都市工学、農業生命科学、電気電子工学、電子情報工学、知能機械工学などの領域において多くの知見を有する学内研究者29名で構成されています。

左下の図「ワーキンググループの構成」で示すように、「スマートシティ」「ライフログ」「送エネ」「植物工場」という、具体的な4つの研究モデルを対象にした各WGで、月に1~2回、熱心な議論が産学メンバー間で交わされており、これらWG内・間の合意形成が、今後のアンビエント社会基盤を検討するに当たり、大変有効であると信じています。



「ambient (アンビエント)」と聞いて、みなさんはどんなことを想像されますか？ 英語で「環境」「周囲」を意味し、「アンビエント社会」とは、これからの情報社会像を表す概念です。「ユビキタス情報社会のさらに進化した段階」という意味で使われ、私たちの生活環境のあらゆる場所にコンピュータやIT機器が存在し、意識せずにそれらの機器を使う社会を指します。そうです、私たちはすでに「アンビエント社会」の中に、第一歩を踏み入れているのです。ここでは、私たち「アンビエント社会基盤研究会」についてご紹介します。(執筆:産学連携本部 プログラムオフィサー 海老野征雄)



森川です。アンビエントデバイスが地球上に張り巡らされ、生活・社会・産業における「神経系」となることで、環境、都市、農業、交通などのあり方が抜本的に変わるようになります。新たな産業の創成をも視野に入れ、産業、経済、社会が変わるプロセスに寄与することを目指しています。

藤田です。アンビエント社会基盤とは、あたかも植物や動物がどこにでもいるように、外界と情報を交換し、それを人間やお互い同士と通信する情報機器を、社会のいたるところに遍在させた、究極のICTシステムです。本研究会はこれの未来の姿を予測し、利用法を探ります。乞うご期待！



Next Step

未来の情報プラットフォーム

1988年に、米国パロアルト研究所の Mark Weiser がユビキタス・コンピューティング、つまりコンピュータが生活空間のどこにでも遍在した情報社会を提唱しました。

ただ、その頃はシリコン半導体をベースにしたコンピュータのため、実用化に至らず、ギラギラしたコンピュータインターフェイスが前面に出てしまい、Weiserの提唱する人に優しい「Calm Technology」は夢に終わったと言われてきました。

今こそ、有機トランジスタや五感センサー、電子書籍などは、新しいアンビエントデバイスを中心としたICTにより、まさに「More than Moore」の世界に入ってきたと感じています。

The Members

部局「横断的」研究会の顔ぶれ

アンビエント情報社会での基盤となるセンサーを中心として幅広くネットワーク研究をされている先端科学技術研究センターの森川博之教授に主査を務めていただきデバイス分野で見識の高い生産技術研究所副所長の藤田博之教授、桜井貴康教授にアドバイザーとして参加していただくことになりました。

後に、工学系研究科の大西隆教授に「都市環境WG」、情報理工の廣瀬通孝教授に「実世界ログWG」、「ビジョンWG」に情報学環の田中秀幸教授にリーダーになっていただきました。

現在、総勢29名の学内研究者にご参加いただいています。



左から、ワーキンググループリーダーの廣瀬通孝(情報理工学系研究科)、大西隆(工学系研究科)、森川博之(先端科学技術研究センター)、大政謙次(農学生命科学研究科)、田中秀幸(情報学環・学際情報学府)の各教授と、高宮真准教授(大規模集積システム設計教育研究センター)

左から、アドバイザーの桜井貴康(生産技術研究所)、副主査の染谷隆夫(工学系研究科)の各教授と、篠田裕之准教授(情報理工学系研究科)

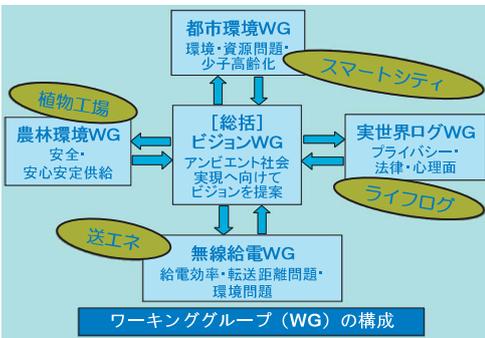


今後の展開

各WGで認識された共通課題は、技術面のみでなく法制度、業界連係など、多面的な観点で検討する必要性です。今後は引き続き、各分野の知見者の講演を聞きながらロードマップ、提言書の作成を目標に、精力的な活動をしていく予定です。

アンビエント社会基盤とは？

電子デバイスの進化は情報通信機器の発明以来、「ムーアの法則」に従った情報処理能力、計算能力の進歩により、様々な機器やシステムの高度化に大きく貢献してきたが、一方で、環境、エネルギー、高齢化、医療社会等の社会的課題を解決するには、実世界情報をそのまま大量に処理したり、価値情報を生活空間に表示する新たな仕組みが必要となる。それは身の周りで通常目にする普通の機器に多様かつ大量の入出力素子の機能を作り込んだアンビエント・デバイスを底辺に、これらをネットワークでつながれたアンビエント情報社会である。本研究会ではアンビエント・デバイスを活用するICTにより、社会基盤として上記課題を解決する学際的技術体系を、「アンビエント社会基盤」と定義する。



連絡先：産学連携本部（本部産学連携課）
電話：内線22857（外線03-5841-2857）
WEBサイト：<http://www.ducr.u-tokyo.ac.jp/>

DUCR 検索



※ この連載では、政策ビジョン研究センターが現在最も重要視しているトピックスを中心に、そのときどきのホットニュースを、当センターの取り組みの様子、活動状況などと共にご紹介していきます。

産学協働による最終提言

高齢者標準の社会イノベーションを

当センターと産学競争力懇談会（COCON）は、2年間の共同研究会の成果として、来るべき超高齢社会に向けての政策提言をまとめました。志を同じくする企業及び産業技術総合研究所の新たな参加を得てまとめた今回の最終提言は、昨年2月の「中間提言」に続き、政策形成について産学が協働する、新たなアプローチといえます。

わが国は規模においても、その速さにおいても、歴史上経験したことのない高齢化を、世界に先駆けて経験しつつあります。しかし、高齢化というと医療、介護及び年金についての課題だけに焦点が当たりがちであり、高齢者の能力を十分に活用し、高齢者を含むすべての人びとが安心して暮らせる社会を実現する「アクティブ・エイジング」に関する課題は見逃されてきています。

病院に行かず、要介護・要支援状態でもない、健康な高齢者の割合は1980年代以降、増加傾向にあり、近年では65歳以上の高齢者のうち、健康な人の割合は約7割となっています（右図）。こうした層の存在も積極的に視野に入れた高齢化時代の新しい社会政策が求められます。

一方で団塊の世代の高齢化により今後出現する大規模な高齢者集団は、その絶対数の大きさからも、都市部においてより深刻な社会的課題となることが予想されます。

新たな産業・雇用の創造と社会の高齢化に伴う課題解決とを同時に実現することを目的に、「シルバーニューディール」の発想の

もと、都市・住宅から、健康・医療・福祉を含む社会全体の在り様を「高齢者標準」とする社会へのイノベーションを早急に行う必要があります。

本研究会では、高齢社会のニーズへの適応力と新しいビジネスモデルの可能性及び高齢者の活動基盤の拡充を探るため、未来におけるアクティブ・エイジング社会の生活シーンを想像し、4つの重点領域でのソーシャルイノベーションを設定しました。また、「高齢者標準基本法」の制定など、国全体の総合力を発揮できる体制整備に向けて、7つの政策を提言しています。

「シルバーニューディール」でアクティブ・エイジング社会を目指す

東京大学政策ビジョン研究センター
産業競争力懇談会（COCON）協働
活力ある高齢社会に向けた研究会 最終提言

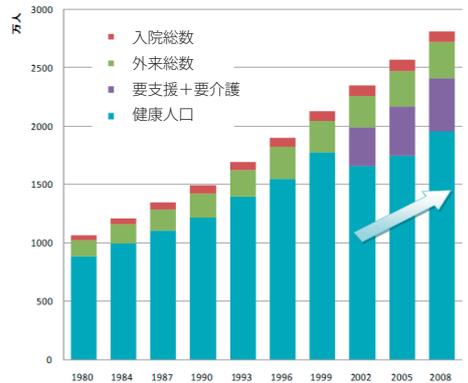
4つの重点領域

1. マイホーム/マイタウンで安心してアクティブに暮らす
2. ストレスを感じずに安全に移動する
3. 社会とつながり続ける
4. クリニカルデータを高度活用して効果的な予防・ケアを受ける

7つの政策提言

1. 「シルバーニューディール」を経済政策の柱に
2. 「高齢者標準社会基本法」の創設
3. ユニバーサル・デザインの理念の普及とカスタマイズ化
4. 実証実験による検証と「アクティブ・エイジング都市・生活者モデル」の創成
5. 社会との対話型イノベーションの総合的展開
6. 産官学・文理融合の研究・推進拠点の形成（日本版クオリティ・オブ・ライフ・テクノロジーセンター）
7. 政府レベルで政策を推進するための駆動力の集結（司令塔とワンストップ拠点の形成）

※政策提言全文は当センターHPをご覧ください。
なお、本提言は日刊工業新聞記事（3/2）、および日刊工業新聞社説（3/7）でも取り上げられました。記事は当センターHPに掲載しています。



65歳以上の高齢者のうち、健康な人の割合は年々増加傾向にある。2008年は69.6%（当センター試算）

【政策ビジョン研究センターオリジナル用語】

シルバーニューディール

高齢化社会の潜在的な需要とわが国が持つ新技術やアイデア、地域資源等の供給サイドの力を結びつけることで、新たな産業・雇用を創造すると同時に、社会の高齢化に伴う課題解決の実現を目指す政策。高齢社会の基盤整備にあたっては、マイホーム / マイタウンで暮らし続けるための街づくりや住宅、交通、地域社会とのつながり、予防・ケア等で潜在的な需要が見込まれる。これに対しオンデマンドバスやパーソナルモビリティ、見守りコミュニティシステム、転倒予防等の新技術・知識はこれらの需要に応えるものであり、国内だけでなく、欧州等の高齢化先進国や今後高齢化を迎えるアジア諸国への展開も期待される。

高齢者標準社会

急速に高齢化が進む社会において経済活力を維持し、国民の幸福実感を高めていくために、高齢者の身体・認知能力を社会の標準として再設計された社会。わが国では、社会の高齢化がかつてないスピードで進んでいるが、医療の高度化等に伴って、高齢者の中の健康人口も増加しており、社会において大きな位置づけを占めている。概ね健康な状態にある高齢者が、身体・認知能力の低下を補いつつ快適な社会生活を営むためには、住宅・街づくり、交通、コミュニケーションのインタフェース、地域社会活動、後見制度等、多岐に渡る領域での大規模な社会変革が必要となる。

3つの領域	キーワード	提言等	国際展開
高齢社会 協力：高齢社会総合研究機構	<input type="checkbox"/> 高齢者標準社会 <input type="checkbox"/> シルバー・ニューディール <input type="checkbox"/> モアライフ <input type="checkbox"/> 市民後見制度	<input type="checkbox"/> 安心して暮らせる活力ある長寿社会の実現を目指して <input type="checkbox"/> シルバーニューディールでアクティブ・エイジング社会を目指す（最終提言）	<input type="checkbox"/> 高齢社会に関する国際シンポジウム（ドイツ他、2010年10月）
医療情報 協力：東大病院、工学系研究科総合研究機構他	<input type="checkbox"/> e-コーホート <input type="checkbox"/> 医療情報の2次利用のルール <input type="checkbox"/> 患者安全	<input type="checkbox"/> クラウドコンピューティングと医療情報への適用 <input type="checkbox"/> クリニカルデータ国際シンポジウム	<input type="checkbox"/> ハーバード・MIT・インベリアルカレッジ ロンドン等とのネットワーク <input type="checkbox"/> WHO (Patient Safetyの次世代 ICPS)
医療機器 協力：工学系研究科他	<input type="checkbox"/> レギュレトリー・サイエンス <input type="checkbox"/> ヘルス・テクノロジー・アセスメント <input type="checkbox"/> トランスベアレンシー	<input type="checkbox"/> 超音波治療機器パネルディスカッション	

政策ビジョン研究センターでは、高齢社会の抱える課題に関して国際展開も見据えつつ、上記3つの異なる領域から研究を進めています。

<http://pari.u-tokyo.ac.jp>



第17回 リ・リユース！

こんにちは！春の日もうららか、新年度が始まりますね。学生のみなさんは新しい学期に向けて期待いっぱい準備万端といったところでしょうか。さて、今回はPCの再々生のお話。

再々生とは、学生から返却されたリユースPCを、まだ使えるかどうか判断したうえでもう一度再生し、PCを必要とする別の学生に貸し出すことで、「リユースのわ」をもう一回転させ、さらに有効利用することで廃棄PCを減らそうという試みです。

平成21年の11月から12月にかけて貸出を行った第1回目の貸与から一年が過ぎて、その際に貸出したPCが約半数返却されてきました。また、卒業や留学、自身のPC購入等の理由でこれまでに返却されたものを含めると、集まったPCは40台弱。この中には、軽くて小型なものや、メモリに余裕があり安定感のあるPCがある一方で、動作が遅くなったりキーボードの反応が鈍くなってしまったものもあります。そういったPCについては、再々生の候補から外すこととなりますが、返却時に学生から提出してもらった成果報告書の内容もそのための大切な判断材料のひとつ。PCを実際に使用していた学生の意見も考慮しながら再々生の対象となるものを選んでいきました。

これらのPCには、研究室からの回収PCと同様に動作の確認後、データの上書き消去、OSとアプリケーションソフトのインストールが行われ、他のリユースPCと遜色ない仕上がりと予定。学生支援をしつつ廃棄PCを減らしている、そんな一挙両得な再々生PCは、今度はどんな学生の役に立っているのでしょうか？(戸)



キャビネットの棚の中にズラリと並ぶ再々生候補のPC。

☆2月各部局ご提供PC☆

工学部18台 情報基盤センター1台
 史料編纂所2台 柏図書館11台
 以上32台のノートPCは6回目の募集時に利用させていただきます。
 どうもありがとうございました。
 引き続きご協力お願いいたします。

- 問い合わせ先：ノートPCリユースオフィス
 (本部資産管理部資産課内)
 E-mail: pcreuse@adm.u-tokyo.ac.jp
 URL : http://pcreuse.adm.u-tokyo.ac.jp/
 内線: 22135 (担当 小川・高橋・戸田)
- ノートPC回収先: 美津野商事株式会社システム事業部
 E-mail: reuse@mizuno.net (担当 川崎・石井)
 電話: 03-3943-0181 FAX: 03-3943-4180

ワタシのオシゴト 第61回

Rings around the UT

情報基盤センター 情報メディア教育部門

岩藤 健弘さん

仕事も年休消化も計画的に(^_^;



システム受付窓口にて対応中 (後ろは隣の係ECCS担当のみなさん)

民間でSEとして10年勤務し、3年前に情報基盤センター電子教材係に採用されました。勤務先は、駒場情報教育棟で隣の係含め6名の体制で働いて居ます。主担当業務はCFIVE(学内LMS)の企画～運用を担当しており学生・教員からのサポートを行っています。

その他は季節の風物詩として卒業式インターネットライブ中継を担当しています。この号が出る頃は丁度卒業式ですね、卒業生、修了生の皆様おめでとうございます!! そして対応された教職員の皆様お疲れ様でした!!

趣味は、年に数回沖縄の離島にダイビングに行ったりリフレッシュする事です。

おすすめは座間味島、大手リゾートの手が入って居ないのんびりした島です。

本学の構成員の皆さんは都会に疲れた人が多いようですので、たまにはこんな場所でのんびりしてみたらいかがですか？

座間味島のビーチでは、水深1mでウミガメが見えます。ウミガメを撮影中の筆者です



得意ワザ：沖縄口（沖縄方言）。年中日焼けした上に顔が濃いので、沖縄では観光客に見られません。

自分の性格：草食系に見せかけた肉食系

次回執筆者のご指名：阿部慧子さん

次回執筆者との関係：学内の研修で出会った仲間

次回執筆者の紹介：何事にも一生懸命な頑張り屋さん

■イベント情報★

●4月12日(火) 入学式

今年も日本武道館にてテント出店致します！例年通り3箇所に出店し、新東大生へコミュニケーションセンターを紹介していきます！スタッフ一同、気合を入れて盛り上げていきますので、ぜひテントへも遊びにいらして下さい！！



ご来店をお待ちしています！

■季節限定 御酒桜ボトルのご案内★

卒入学シーズン限定、「御酒桜ボトル」発売中です！本年度も年号と、春を感じるかわいらしい桜デザインとなっています。

前回ご紹介した名入れを桜ボトルで作することもできます★

卒・入学の記念に是非いかがでしょうか？数量・期間限定の販売となりますので、ぜひお早めにお立ち寄り下さい。



右 御酒桜ボトル
4200円(税込み)

左 御酒桜ミニボトル
1995円(税込み)

■スタッフお薦め商品★



文学部3年
富田 省号

こんにちは！昨年末からコミュニケーションセンターに仲間入りした、富田です！

今回私がお薦めする商品は、「光触媒シート」です。

もともと土壤汚染への対策として作られたものを商品化したもので、形状を生かした狭い所(冷蔵庫やロッカー等)の脱臭が得意技です。しかもこのシート、1か月に1～2度日光に当てるだけで何度でも繰り返しお使い頂けます！

今まで気になっていたあの場所のニオイ、この機会にパッと消してしましましょう！！

スタッフ一同、ご来店を心よりお待ちしております。

担当：UTCC三浦



The University of Tokyo

東京大学コミュニケーションセンター
The University of Tokyo
Communication Center

OPEN：月曜～土曜 10：00～18：00
電話：03-5841-1039
http://www.utcc.pr.u-tokyo.ac.jp

*重要なお知らせ
節電・停電に伴う交通事情により営業時間を短縮している可能性があります。ご来店の前に、お電話でお問い合わせください。

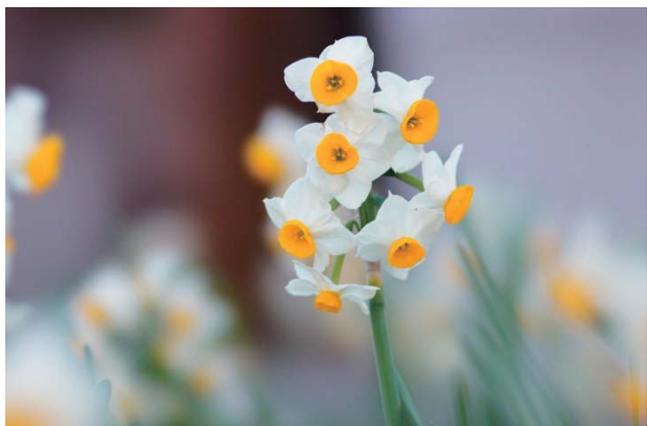
読者投稿写真

2007年、秋、本郷



コメント：2010年の紅葉は色づきがあまり良くなく、2007年に撮った写真をひっぱりだしてきました。

本郷の越前水仙



コメント：一月上旬、広報センターの裏で人知れず見ごろを迎えていました。

(撮影：本部外部資金課外部資金戦略チーム
小林幸太郎さん)

平成23年度 学内広報発行スケジュール

号数	原稿〆切	発行日 (校了)	配布
1411	4月 1日(金)	4月 22日(金)	4月 28日(木)
1412	4月 28日(木)	5月 25日(水)	5月 31日(火)
1413	5月 27日(金)	6月 22日(水)	6月 28日(火)
1414	6月 29日(水)	7月 25日(月)	7月 29日(金)
1415	7月 28日(木)	8月 25日(木)	8月 31日(水)
1416	8月 30日(火)	9月 26日(月)	9月 30日(金)
1417	9月 29日(木)	10月 25日(火)	10月 31日(月)
1418	10月 28日(金)	11月 24日(木)	11月 30日(水)
1419	学生生活実態調査号		
1420	11月 24日(木)	12月 16日(金)	12月 22日(木)
1421	1月 5日(木)	1月 25日(水)	1月 31日(火)
1422	1月 31日(火)	2月 23日(木)	2月 29日(水)
1423	2月 29日(水)	3月 26日(月)	3月 30日(金)

* 上記は平成23年3月15日現在の予定です。
都合により変更になる可能性がありますので下記URLよりご確認ください。

学内広報にご寄稿の際は、以下のURLにある「記事提出要領」をご参照ください。

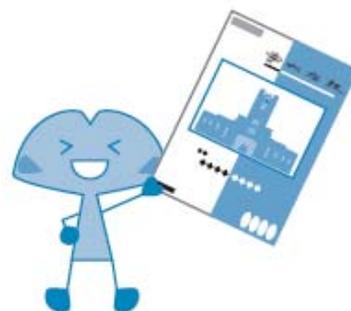
http://www.u-tokyo.ac.jp/gen03/kouhou_j.html

【東京大学ホームページ】→【左下の学内広報アイコンをクリック】

問い合わせ先・原稿提出先

本部広報課 広報企画チーム

TEL:03-3811-3393 内線22031 E-mail:kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp



INFORMATION

お知らせ

お知らせ

大学院理学系研究科・理学部

「サイエンスギャラリー美術作品展示企画」
宇宙膨張進化の視覚伝達装置
ービッグバンと宇宙の晴れ上がりー

美術家の藤掛正邦氏に作品制作をご依頼し、理学部サイエンスギャラリーにおいて、初めての科学と芸術のコラボレーション美術作品を展示しています。

作品は、「宇宙の創成」より着想を得て制作された動きと変化のあるワイヤー・アートです。宇宙膨張進化の円錐形フォルムをワイヤーで立体化した中に、ビッグバン（火の玉宇宙）と、宇宙の晴れ上がり（観測できる宇宙最古の光）のイメージを造形表現しています。

中高校生、大学生、一般の方と多くの方々には是非ご覧いただき、学内外の新しい交流の機会となれば幸いです。

展示場所：本郷キャンパス 理学部1号館中央棟1階
「サイエンスギャラリー」内

展示期間：2011年2月16日（水）～8月末

展示時間：平日 9:00～16:30

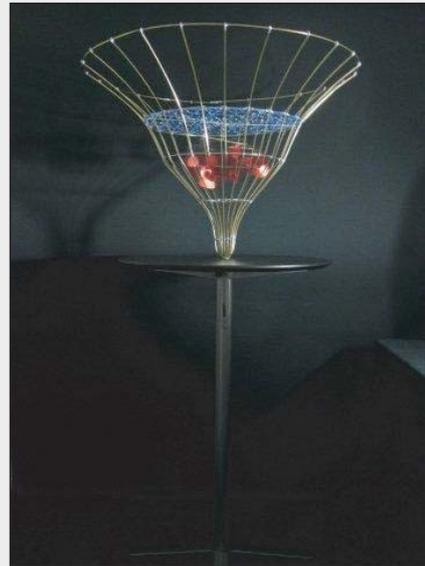
<http://www.s.u-tokyo.ac.jp/info.html?id=2673>

主催：理学系研究科広報委員会

問い合わせ先：理学系研究科・理学部広報室

TEL:03-5841-7585

E-mail:kouhou@adm.s.u-tokyo.ac.jp



作品：宇宙膨張進化の視覚伝達装置

●藤掛正邦氏 プロフィール

東京藝術大学大学院 美術研究科視覚デザイン専攻 修士課程修了後、(株)電通にアートディレクターとして入社し各広告賞受賞。独立後、ワイヤー・アートで舞台美術・CM・ポスター・書籍表紙・ディスプレイ等でも各賞を受賞し活躍されている。

現在、文教大学情報学部広報学科教授。

お知らせ

保健・健康推進本部

3地区保健センター「新入生健康診断実施に伴う休診のお知らせ」

保健・健康推進本部では例年4月上旬から中旬にかけて駒場キャンパスにおいて新入生健康診断を行っています。3地区（本郷・駒場・柏）の保健センター全体で健康診断業務に対応することとなりますので4月5日（火）、6日（水）、7日（木）を休診とさせていただきます。また、上記3日間のほかにも4月中旬ごろまで新入生健康診断に関係する業務のために、やむを得ず休診や診療時間の短縮など業務時間に変更等が生じる場合がありますので予めご了承ください。

各地区の保健センターへお越しになる際にはご面倒でも下記ホームページをご覧ください。電話等で状況を確認してからお越しになるようお願いいたします。

学生、教職員の皆様には大変ご不便をおかけしますが、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

【問合せ先】

保健・健康推進本部

URL：<http://www.hc.u-tokyo.ac.jp/>

本郷保健センター：電話 03-5841-2575・2574

内線 22575・22574

駒場保健センター：電話 03-5454-6080

内線 46080

柏保健センター：電話 04-7136-3040 内線 63040

お知らせ

アイソトープ総合センター

平成 23 年度新規放射線取扱者全学一括講習会開催のお知らせ

本学においてアイソトープや放射線発生装置等を使用する人（放射線取扱者）は、所属部局で登録し、放射線安全取扱・法令等の教育・訓練を受講し、放射線取扱者健康診断を受診することが必要です。とくに、新たに放射線取扱者になろうとする人は、予め所属部局に登録申請し、全学一括で開催される新規放射線取扱者講習会を受講することが義務づけられています。全学一括の新規放射線取扱者講習会には、研究等に放射線を利用する人を対象とする「RIX コース」・「X 線コース」と、放射線診療従事者を対象とする「診療放射線コース」・「核医学コース」があります。放射線取扱の内容により受講が必要なコースが異なります。平成 23 年度の全学一括新規放射線取扱者講習会の開催予定は以下のとおりです。なお、4 月 25 日と 6 月 14 日に柏キャンパスで実施される講義以外はアイソトープ総合センターの教育訓練棟で実施します。

1. RIX コース

開催回	区分 ¹	講義日	実習日	募集人員
第 27 回	B	4 月 11 日(月) ²	4 月 13 日(月)	60 人
第 28 回	B-1	4 月 22 日(金) ²	4 月 26 日(金)	120 人
	B-2	4 月 22 日(金) ²	4 月 27 日(金)	
	B-3	4 月 25 日(月)	4 月 26 日(月)	
	B-4	4 月 25 日(月)	4 月 27 日(月)	
第 29 回	A	5 月 10 日(火) ²	5 月 11 日(水)	40 人
	S	5 月 10 日(火) ²	5 月 12 日(木) 13 日(金)	40 人
第 30 回	B-1	5 月 27 日(金)	5 月 30 日(月)	60 人
	B-2	5 月 27 日(金)	5 月 31 日(火)	30 人
第 31 回	B-1	6 月 14 日(火) ^{2,3}	6 月 21 日(火)	120 人
	B-2	6 月 14 日(火) ^{2,3}	6 月 22 日(水)	
	B-3	6 月 20 日(月)	6 月 21 日(火)	
	B-4	6 月 20 日(月)	6 月 22 日(水)	
第 32 回	B	7 月 22 日(金) ²	7 月 25 日(月)	40 人
	S	7 月 22 日(金) ²	7 月 26 日(火) 27 日(水)	40 人
第 33 回	B	9 月 26 日(月)	9 月 27 日(火)	60 人
第 34 回	B	10 月 17 日(月)	10 月 18 日(火)	60 人
第 35 回	B	11 月 21 日(月)	11 月 22 日(火)	60 人
第 36 回	B	1 月 12 日(木) ²	1 月 13 日(金)	60 人

第 37 回	B	2 月 22 日(水)	2 月 23 日(木)	60 人
--------	---	-------------	-------------	------

2. 英語 RIX コース

開催回	区分 ¹	講義日	実習日	募集人員
第 20 回	B-1	5 月 27 日(金)	5 月 30 日(月)	10 人
	B-2	5 月 27 日(金)	5 月 31 日(火)	10 人
第 21 回	B-3	6 月 20 日(月)	6 月 21 日(火)	10 人
	B-4	6 月 20 日(月)	6 月 22 日(水)	10 人
第 22 回	B	7 月 22 日(金) ²	7 月 25 日(月)	10 人
	S	7 月 22 日(金) ²	7 月 26 日(火) 27 日(水)	10 人
第 23 回	B	9 月 26 日(月)	9 月 27 日(火)	10 人
第 24 回	B	10 月 17 日(月)	10 月 18 日(火)	10 人
第 25 回	B	11 月 21 日(月)	11 月 22 日(火)	10 人
第 26 回	B	1 月 12 日(木) ²	1 月 13 日(金)	10 人
第 27 回	B	2 月 22 日(水)	2 月 23 日(木)	10 人

3. X 線コース

開催回	講義日	募集人員
第 144 回	4 月 11 日(月) ²	60 人
第 145 回	4 月 25 日(月) ³	60 人
第 146 回	5 月 2 日(月)	100 人
第 147 回	5 月 10 日(火) ²	30 人
第 148 回	5 月 27 日(金)	30 人
第 149 回	6 月 14 日(火) ^{2,3}	60 人
第 150 回	6 月 20 日(月)	60 人
第 151 回	7 月 22 日(金) ²	30 人
第 152 回	9 月 26 日(月)	60 人
第 153 回	10 月 17 日(月)	60 人
第 154 回	11 月 21 日(月)	60 人
第 155 回	1 月 12 日(木) ²	60 人
第 156 回	2 月 22 日(水)	60 人

4. 英語 X 線コース

開催回	講義日	募集人員
第 39 回	5 月 2 日(月)	10 人
第 40 回	5 月 27 日(金)	10 人
第 41 回	6 月 20 日(月)	10 人
第 42 回	7 月 22 日(金) ²	10 人
第 43 回	9 月 26 日(月)	10 人
第 44 回	10 月 17 日(月)	10 人
第 45 回	11 月 21 日(月)	10 人
第 46 回	1 月 12 日(木) ²	10 人
第 47 回	2 月 22 日(水)	10 人

1 区分 B は一般コース、A は加速器・SOR コース、S はライフサイエンスコースです。
一般コースは「非密封 RI の安全取扱と放射線の測定実

験」を、加速器・SOR コースは「加速器の安全取扱に関わる講義と実習」を、ライフサイエンスコースは「ノザンプロットにおける放射性同位元素と蛍光の検出感度の違いに関する実習」を行います。ライフサイエンスコースの実習は2日間（午後のみ）です。

- 2 講義日に放射線取扱者健康診断を受診できます。
- 3 4月25日と6月14日は柏キャンパスで講義を実施します。

RIX コースに参加するには、まず部局での放射線取扱者登録申請・講習会申込書の提出が必要です。アイソトープ総合センターで直接申込みを受け付けることはできません。放射線取扱者登録申請手続きの手順及び放射線取扱者講習会の開催日程と募集については、アイソトープ総合センターのホームページ (<http://www.ric.u-tokyo.ac.jp>) でも案内しています。また、RIX コースの実習に参加する前に放射線取扱者取扱前健康診断の受診が必要です。保健・健康推進本部のホームページ (<http://www.hc.u-tokyo.ac.jp>) で、健康診断の日程が確認できます。4月に開催される RIX コースの受講希望者は、できるだけ早く所属部局の事務室または放射線管理室へお申し込みください。（締め切り日は部局により異なりますので確認してください。）

非密封 RI、加速器、(SOR 利用も含む)を使用する方は RIX コースの受講が必須です。RIX コースには3つのコース (B, A, S) がありますが、どれを受講されても構いません。RIX コースを修了すれば、X 線コースも終了した事になります。

なお、X 線コースだけの受講については、事前の申し込みは不用ですので、当日、申込書を持って会場においでください。但し、先着順で受付を行い、募集人員を超えた場合、及び、定員に満たない場合でも、講義開始時刻に遅れた方は参加頂けませんので注意してください。一方、以前より放射線取扱者である人は、毎年、それぞれの部局で再教育を受けることが法令により定められています。実施内容や方法については、それぞれ所属の研究室や部局の担当者に確認してください。

アイソトープ総合センターでは、本学の放射線取扱者(約6,000名)についての再教育における参考資料として、毎年、年度始めに小冊子「放射線取扱者再教育用資料」を、登録されている取扱者全員に配布しております。平成23年度に配付する「再教育用資料 No.29 (2011)」の内容は、「重粒子線加速器の医学利用」、「汚染検査・汚染除去」、「ノザンプロットにおける放射性同位体法と蛍光法の検出感度の違い」です。資料が配付されましたら目を通して頂き、今後の研究および放射線管理の参考にしてください。

お知らせ

情報基盤センター

「はじめての論文の探し方」ほか 「情報探索ガイダンス」各種コース実施のお知らせ

新学期の早いうちに、講習会に参加して、論文の探し方の基本をマスターしましょう！

情報基盤センター図書館電子化部門では、定期的に、「情報探索ガイダンス」各種コースを実施しています。

実際にパソコンを操作しながら実習するので、わかりやすいと大変好評です。

本学にご所属であれば、学生・教職員を問わず、どなたでも参加できます。ぜひご参加ください。

※自宅からの利用方法はどのコースでも説明します。

■ 4/11 (月) 12:10 ~ 12:30

自宅から検索するには？ (20分ワンポイント講習)

自宅からデータベースや電子ジャーナルを使う方法だけ、知りたい。そんな方にお奨めなのが、このコース。ECCS アカウント認証による SSL-VPN Gateway サービスを紹介します。

■ 4/22 (金) 15:00 ~ 16:00 はじめての論文の探し方

■ 4/26 (火) 15:00 ~ 16:00 はじめての論文の探し方

「文献検索は初めて」という初心者向けにゆっくりと、文献リストの読み取り方、図書、雑誌、日本語論文 (CiNii)、英語論文 (Web of Science) の基本的な探し方を実習します。(同内容で2回実施します。ご都合の良い方にご参加ください。)

●会場：本郷キャンパス総合図書館1階講習会コーナー
(ECCS 無線 LAN 対応ノート PC 持込 OK)

●参加費：無料

●予約不要 各回先着 14 名。直接ご来場ください。

新学期こそ！
論文の探し方をマスター

ゆっくり説明します
はじめての論文の探し方
図書、雑誌、日本語論文 (CiNii)、英語論文 (Web of Science) の基本的な探し方

4/22 (金) 15:00 ~ 16:00
4/26 (火) 15:00 ~ 16:00

自宅から検索するには？
SSL-VPN Gateway サービスの紹介
ECCS アカウント認証のための講習会ではありません

4/12 (火) 12:10 ~ 12:30

各コース先着 14 名
参加費無料
予約不要

会場 本郷キャンパス総合図書館1階
講習会コーナー

東京大学にご所属の方ならどなたでも参加できます。
パソコンを持って実習します。
ECCSの無線LAN対応PC持込もOKです。

情報基盤センター 学務情報リソース部
Library@u-tokyo.ac.jp | 03-5841-2966 (内線2249)
<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/ipccs/training.html>
https://twitter.com/ipccs_jstla

PCコース 講習会 申込

※上記の他に、本学の図書館所蔵の本や雑誌を検索する「東京大学 OPAC」の講習会も実施します。
(参照：別記事「“総合図書館オリエンテーション”実施のお知らせ ～新しくなった OPAC の使い方も講習します～」)

★授業・ゼミでも講習します！

論文の探し方の出張講習を、随時受付中です（無料）。
授業やゼミの内容に合わせて講習いたします。会場のことなど、ご相談に応じます。まずはお気軽にお問い合わせください。どのキャンパスでも OK です。
過去の実施例は以下の URL でご覧いただけます。
(<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/shuccho.html>)

★ Litetopi メールマガジン発信中！

本学所属の方を対象に、データベースのニュースや講習会のご案内などをお届けします。配信ご希望の方は、下記アドレスまでメールでご連絡ください。（無料）



literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

●お問い合わせ：

学術情報リテラシー係 03-5841-2649（内線：22649）
literacy@lib.u-tokyo.ac.jp
（*は@に置き換えて送信してください。）
<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>
（ツイッター http://twitter.com/gacos_todai）



お知らせ

情報基盤センター

“総合図書館オリエンテーション”実施のお知らせ
～新しくなった OPAC の使い方も講習します～

本郷キャンパスにある「総合図書館」を知っていますか？活用していますか？

4月に下記の日程で“総合図書館オリエンテーション”を、総合図書館と情報基盤センター図書館電子化部門の共催で実施します。

春から初めて総合図書館を利用される方はもちろん、これまで利用したことのある方も、オリエンテーションに参加して、ぜひ総合図書館を使いこなしてください。
新しくなった OPAC の講習会もあります。便利になっ

た OPAC の使い方を、この機会にマスターしましょう。

本学にご所属であれば、学生・教職員を問わず、どなたでも参加できます。

※英語コースもあります。留学生のみなさんにもお声かけください。

●集合場所：

本郷キャンパス総合図書館1階 総合案内カウンター
（予約不要。直接お越しください。）

●内容：（1コマだけでも参加OK）

- ・「OPAC 入門」：東京大学 OPAC の使い方（蔵書検索）、電子ジャーナルの探し方
- ・「利用案内」：総合図書館の利用案内
- ・「書庫案内」：総合図書館書庫の案内、利用法
- ・「国際資料室案内」：国際資料室の案内とインターネットによる検索

●参加費：無料

●日程：（1コマだけでも参加OK）

- 4/12（火）
 - 11:00-11:30 OPAC 入門
 - 11:30-12:00 利用案内
 - 12:00-12:30 書庫案内
- 4/13（水）
 - 13:00-13:30 OPAC 入門【英語コース】
 - 13:30-14:00 利用案内【英語コース】
 - 14:00-14:30 書庫案内【英語コース】
- 4/14（木）
 - 13:00-13:30 OPAC 入門
 - 13:30-14:00 利用案内
 - 14:00-14:30 書庫案内
- 4/18（月）
 - 15:00-15:30 OPAC 入門
 - 15:30-16:00 利用案内
 - 16:00-16:30 書庫案内
- 4/19（火）
 - 13:00-13:30 OPAC 入門【英語コース】
 - 13:30-14:00 利用案内【英語コース】
 - 14:00-14:30 書庫案内【英語コース】
- 4/20（水）
 - 12:00-12:30 OPAC 入門
 - 12:30-13:00 利用案内
 - 13:00-13:30 書庫案内
 - 14:00-14:45 国際資料室案内
- 4/22（金）
 - 13:00-13:45 国際資料室案内
 - 17:00-17:30 OPAC 入門
 - 17:30-18:00 利用案内
 - 18:00-18:30 書庫案内
- 4/26（火）

13:00-13:30 OPAC 入門
 13:30-14:00 利用案内
 14:00-14:30 書庫案内

総合図書館 オリエンテーション

開始時間までに、
 本郷キャンパス 総合図書館 1F 総合案内カウンター集合
 東京大学にご所属の方ならどなたでも参加できます。

＜内容＞ コマだけでも参加できます
 「OPAC 入門」 東京大学 OPAC の使い方 (紙書検索・電子ジャーナルの探し方)
 「利用案内」 総合図書館の利用案内
 「書庫案内」 書庫の案内・利用法
 「国際資料案内」 国際資料室の案内とインターネットによる検索

4月

12	13	14
OPAC 入門 13:00-13:30 利用案内 13:30-14:00 書庫案内 14:00-14:30	英語コース OPAC 入門 13:00-13:30 利用案内 13:30-14:00 書庫案内 14:00-14:30	OPAC 入門 13:00-13:30 利用案内 13:30-14:00 書庫案内 14:00-14:30
18	19	20
OPAC 入門 15:00-15:30 利用案内 15:30-16:00 書庫案内 16:00-16:30	英語コース OPAC 入門 13:00-13:30 利用案内 13:30-14:00 書庫案内 14:00-14:30	総合図書館 休館日
26		
OPAC 入門 13:00-13:30 利用案内 13:30-14:00 書庫案内 14:00-14:30		

総合図書館 参考調査係 sanko@lib.u-tokyo.ac.jp 03-5841-2647
 情報基盤センター 学術情報リテラシー係 literacy@lib.u-tokyo.ac.jp 03-5841-2649

“General Library Library Tour in English”

Apr.13 (Wed.)

13:00-13:30 OPAC Course
 13:30-14:00 Library Tour
 14:00-14:30 Guide to the Stacks

Apr.19 (Tue.)

13:00-13:30 OPAC Course
 13:30-14:00 Library Tour
 14:00-14:30 Guide to the Stacks

It is not necessary to attend all 3 courses. Participants can join each course of 30 minutes.

The Library Tour will show you not only its rich collections but also materials and facilities provided for you, such as foreign newspapers, foreign TV, and computers.

The OPAC Course is an introductory course to online catalogs and e-journals. (This session offers a hands-on approach by using computers.)

No advance reservation is required. Free of charge.

Please come to the General Information Desk of the General Library (Hongo Campus) before the scheduled time.

Hongo Campus April, 2011
 General Library
 Library tour
 in English
 Free of charge

	Apr. 13 (Wed)	Apr. 19 (Tue)
OPAC Course	13:00-13:30	13:00-13:30
Library Tour	13:30-14:00	13:30-14:00
Guide to the Stacks	14:00-14:30	14:00-14:30

It is not necessary to attend all 3 courses. Participants can join each course of 30 minutes.
 The Library Tour will show you not only its rich collections but also materials and facilities provided for you, such as foreign newspapers, foreign TV, and computers.
 The OPAC Course is an introductory course to online catalogs and e-journals. (This session offers a hands-on approach by using computers.)

No advance reservation is required. Please come to the General Information Desk of the General Library before the scheduled time.

Hongo Campus
 General Library
 here
 Main Gate Akamon

Reference Service Section: sanko@lib.u-tokyo.ac.jp
 Academic Information Literacy Section: literacy@lib.u-tokyo.ac.jp

※上記の他に、情報探索ガイダンス「はじめての論文の探し方」などの講習会も実施します。

(参照：別記事「はじめての論文の探し方」ほか“情報探索ガイダンス”各種コース実施のお知らせ)

●問い合わせ：

総合図書館 参考調査係
 03-5841-2647 (内線：22647)
 sanko * lib.u-tokyo.ac.jp
 (*は@に置き換えて送信してください。)
<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/sogoto/>

情報基盤センター 学術情報リテラシー係

03-5841-2649 (内線：22649)
 literacy * lib.u-tokyo.ac.jp
 (*は@に置き換えて送信してください。)
<http://www.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/gacos/training.html>

お知らせ

大学院理学系研究科・理学部

第71回小石川植物園市民セミナーのご案内

小石川植物園後援会が主催する第71回小石川植物園市民セミナーが下記の通り開かれます。今回は、本学大学院理学系研究科の清水淳子博士による、日光植物園のサクラについての講演です。日光植物園に植栽されているサクラの種類、育成・管理、病虫害とその防除などに関する講演の後には、清水博士の案内による園内のサクラ類の観察も予定されています。本学関係者に限らず、どなたでも参加できます。どうぞ皆様お誘い合わせの上、是非ご参加下さいますよう、ご案内申し上げます。

講師：清水 淳子（東京大学大学院理学系研究科）
演題：「日光植物園のサクラ類 - その保全と管理 -」
日時：4月23日（土）14：00～16：00
場所：理学系研究科附属植物園日光分園（日光植物園）
庁舎

参加費：無料（但し、一般の方は入園料が必要です）
参加申込方法：4月15日までに、往復葉書または電子メールにて後援会までお申し込み下さい。返信葉書ないし返信メールが招待状となります。なお参加ご希望多数の際は、お申し込み順に従い受付が締め切られることがあります。悪しからずご了承下さい。

主催・参加申込先：
〒112-0001 文京区白山3-7-1
東京大学大学院理学系研究科附属植物園内
小石川植物園後援会
koishikawa-koenkai@koishikawa.gr.jp
問い合わせ先：理学系研究科附属植物園
杉山宗隆准教授（03-3814-0368）

お知らせ

大学院理学系研究科・理学部

第19回理学部公開講演会の開催

「身近で大きな理学」

理学という言葉や、普段の生活で使うことはあまりありません。

素粒子・ビッグバンなど、あこがれとともに雲をつかむような話題ばかりが目立ちますが、本来「なぜだろう」という疑問が出発点の理学には、身近なところにも実はおもしろい研究テーマが隠れています。今回は、われわれの周囲をとりまく大気・植物・経済について、理学的アプローチで取り組む研究を3つとりあげます。

日時：4月24日（日）14:00～16:40（13:00開場）
*終了後、講演者との歓談の時間を設けます。

会場：本郷キャンパス 安田講堂
入場：無料 事前申し込み不要
どなたでもご参加いただけます。
定員：700名（当日先着順）

講演内容：

「大型レーダーが拓く新しい南極大気科学」
佐藤 薫（理学系研究科地球惑星科学専攻 教授）

「数学は経済を動かすか？：数学の応用の1つのありかた」

山本昌宏（数理科学研究科 教授）

「鉢植えから植物の多様性と進化を掘り出す」
邑田 仁（理学系研究科附属植物園長 教授）

中継：インターネット配信を予定。
主催・問い合わせ先：
大学院理学系研究科・理学部広報室
TEL：03-5841-7585
E-mail: kouhou@adm.s.u-tokyo.ac.jp
URL: <http://www.s.u-tokyo.ac.jp/PL19>

お知らせ

附属図書館

平成23年度夏学期総合図書館備付け図書の推薦について

総合図書館では、学生の学習・研究を助け、また教養をより豊かにするために、全学の教員（常勤講師以上）から図書を推薦していただく制度を設けております。

つきましては、平成23年度夏学期に向けて下記のとおり図書の推薦をお願いいたします。

1 推薦の範囲

- (1) 講義に密着した図書は、本郷キャンパスの講義を対象とします。
- (2) その他、学生の教養書としてふさわしいものをご推薦ください。
ただし、雑誌および学生にとってあまりに高度な専門図書は除いてください。

2 推薦締切り

講義に密着した図書は、平成23年4月28日（木）
その他の図書の推薦は常時受け付けます。

3 推薦方法

総合図書館備付け図書推薦要領によります。
※推薦要領は、各部局図書館（室）に備付けております。

4 問合せ先

附属図書館情報管理課選書受入係
内線：22626
e-mail：sen@lib.u-tokyo.ac.jp

* 附属図書館 Web サイト

(<http://www.lib.u-tokyo.ac.jp/>)

上記サイトの「ニュース」にある「総合図書館備付け図書の推薦について（04/01）」もご参照ください。

人事異動（教員）

発令日、部局、職、氏名（五十音）順

発令日	氏名	異動内容	旧（現）職等
（昇 任）			
23.2.16	門野 岳史	大学院医学系研究科准教授	医学部講師
23.2.16	河合祥一郎	大学院総合文化研究科教授	大学院総合文化研究科准教授
23.3.1	秋山 聡	大学院人文社会系研究科教授	大学院人文社会系研究科准教授
23.3.1	伊藤 恭子	大学院理学系研究科准教授	大学院理学系研究科助教
23.3.1	高橋 美保	大学院教育学研究科准教授	大学院教育学研究科講師
23.3.1	徳永 朋祥	大学院新領域創成科学研究科教授	大学院新領域創成科学研究科准教授
（配置換）			
23.3.1	辻井 潤一	大学院情報理工学系研究科教授	大学院情報学環教授
（兼 務 命）			
23.2.16	長谷川壽一	大学院総合文化研究科長 教養学部長	大学院総合文化研究科教授

※退職後又は採用前の職等については、国の機関及び従前国の機関であった法人等のみ掲載した。

東京大学における教員の任期に関する規則に基づく専攻、講座、研究部門等の発令については、記載を省略した。

**東京大学学生支援事業・第4回学生企画コンテスト
〈学生による「タフな学生養成企画」〉**

**4月1日から募集を開始します！
皆様からのアイデアを待っています！
募集期間：4月1日（金）～4月28日（木）**

東京大学は、学生の皆さんから、学生ならではの創意にあふれ、本学で実施されるにふさわしい事業企画案を募集します。採用された企画は、企画立案者にも加わっていただき実施します。

本コンテストの目的は、行動シナリオの精神に則り、本学構成員の一員である学生の皆さんに本学の事業に参加していただき、皆さんのアイデアと発想を活力あふれるキャンパスの創出に活かすことにあります。

「国際的な広い視野」「強靱な開拓者精神」あるいは「公共的な責任を考え行動する」など「タフな東大生」として期待に応えられるような、斬新なアイデアに富む企画が多数寄せられることを期待しています。

詳しくは、WEBで!

【お問い合わせ先】
学生企画コンテスト事務局
本部学生支援課学生生活チーム
gakusei-kikaku@adm.u-tokyo.ac.jp

http://www.u-tokyo.ac.jp/stu01/h16_j.html

Contents

特集

- 02 「卒業生室」の活動とは？

NEWS

一般ニュース

- 05 本部評価・分析課
平成 23 年度 学科の設置等について
- 06 本部管理課
地域とつながる ―柏ロッジの国際交流―
- 07 海洋アライアンス
女子中高生・女子大生を対象とした「海のプロ
フェッショナル―海洋学への招待状―」出版記
念セミナー開催
- 08 国際本部
日本語教育センター 2010 年度冬学期「集中日
本語コース・学術日本語コース」修了式が行わ
れる
- 10 本部入試課
平成 23 年度外国学校卒業学生特別選考の第 1
次選考合格者が決まる
- 11 本部入試課
第 2 次学力試験（前期日程・後期日程）の出願
受付終わる
- 12 本部入試課
平成 23 年度第 2 次学力試験（前期日程）第 1
段階選抜合格者が決まる

部局ニュース

- 13 大学院総合文化研究科・教養学部
部局長の交代
- 14 退職教員の紹介
- 17 大学院総合文化研究科・教養学部
駒場 I キャンパスで「研究科長と留学生との懇
談会」開催される
- 18 大学院工学系研究科・工学部
工学系研究科共通科目「創造性工学プロジェク
ト」でラリー・モンテカルロ・ヒストリックを
総合 42 位完走
- 19 地震研究所
霧島に臨時観測室設置
- 19 大学院教育学研究科・教育学部
附属バリアフリー教育開発研究センター主催国
際シンポジウム『人と人との間のバリアフリー』
開催
- 20 物性研究所
第 7 回物性研技術発表会開催される
- 21 大学院教育学研究科・教育学部
教育学部附属中等教育学校で平成 22 年度サイ
エンス・パートナーシップ・プロジェクト行わ
れる

コラム

- 22 決算の DOOR ～数字が語る東京大学 第 6 回
- 22 インタープリターズバイブル vol.44
- 23 Crossroad 産学連携本部だより vol.64
- 24 Policy + alt vol.18
- 25 PC リユースのわ 第 17 回
- 25 Relay Column「ワタシのオシゴト」 第 61 回
- 26 コミュニケーションセンターだより No.74

◆表紙写真◆

平成 23 年度合格発表（前期日程）のひとつま

INFORMATION

お知らせ

- 28 大学院理学系研究科・理学部
「サイエンスギャラリー美術作品展示企画」宇宙
膨張進化の視覚伝達装置―ビッグバンと宇宙の
晴れ上がり―
- 28 保健・健康推進本部
3 地区保健センター「新入生健康診断実施に伴
う休診のお知らせ」
- 29 アイソトープ総合センター
平成 23 年度新規放射線取扱者全学一括講習会
開催のお知らせ
- 30 情報基盤センター
「はじめての論文の探し方」ほか“情報探索ガイ
ダンス”各種コース実施のお知らせ
- 31 情報基盤センター
“総合図書館オリエンテーション”実施のお知ら
せ
～新しくなった OPAC の使い方も講習します～
- 32 大学院理学系研究科・理学部
第 71 回小石川植物園市民セミナーのご案内
- 33 大学院理学系研究科・理学部
第 19 回理学部公開講演会の開催
- 33 附属図書館
平成 23 年度夏学期総合図書館備付け図書の推
薦について

事務連絡

- 34 人事異動（教員）

淡青評論

- 36 ポスドク時代

編集後記

この場を借りてご説明させていただくと、この 1410 号は原稿の締切が 2 月 28 日、入稿が 3 月 4 日、発行が 3 月 24 日のため、基本的には 2 月時点の情報が掲載されています。東北地方太平洋沖地震の後、変更になってしまったことがあるかと思いますが、何卒ご容赦ください。最新の情報は是非各所のウェブサイト等でご確認ください。

表紙写真には 3 月 10 日の合格発表の風景を選びました。合格発表が始まる瞬間を特等席で見させていただきましたが、ラグビー部とアメフト部の学生たちが掲示板の両サイドから少しずつ前に進んでいって合格発表がはじまる、というのは何か独特な儀式をみているようで面白かったです。受験生の晴れやかな笑顔がまぶしい一日でした。（花粉も大量に飛散していて目をあけられなかったというのもあります。）

その翌日に、地震が起こり、それまでと全てが変わってしまいました。果たしてこの学内広報も無事に発行されるのか！？胸が苦しくなるようなニュースや、余震や不安な情報で眠れない日が続きますが、被災された方やまわりの人たちのことを思いながら、日々踏ん張っていきたいです。（ふ）



七徳堂鬼瓦

ポストク時代

20年以上前の事になる。学位を取得はしたものの就職が見つからず、アルバイトをしながら無給の研究者として出身研究室に在籍させて貰っていた。そんなある日、米国の大学でポストクの職が見つかり、これ幸いと渡米することになった。到着して間もなく、ボスから「君の契約は1年ポッキリ。そのあとは保証できない。すぐに次の就職先を探し始めなさい」「一流誌に載るような論文を1年間で1報以上ものにできなかったら、その先は諦めたほうがいい」という事を言い渡された。正直行ってやや焦った。と同時に、契約のもとで働いているというプロ意識を強力に植え付けられた。幸いにも任期の更新ができ、同じ大学で2年半のポストク生活を送った。研究者人生の中では、ごく短い期間ではあったが、振り返ると、30代前半に通過した「ポストク時代」には、職業研究者としてのアイデンティティを確立していく段階としての特別の意味があったと思う。上述のようなプロ意識の形成、不安定な状況下での自己管理の工夫、指導スキルの習得、自己アピール力の研鑽、人脈形成などなど。また、ポストクには大学の管理運営や教育に関する業務が全く課せられなかった為、全力を傾注して研究に没頭することができた。これが最も楽しかった事である。

さて、今日の我が国では、いわゆる「ポストク問題」が深刻である。博士学位取得者の需要と供給の不均衡という構造的な観点から様々な議論がなされているが、「ポストク＝定職につけない不幸な状態」という論調に首を傾げることもある。若い研究者の知的エネルギーを大学に取り込みつつ、厳しい競争と切磋琢磨の雰囲気の中で職業研究者を養成するという、ポストク制度の積極的な意義が見失われているからだ。需要や供給に関する議論も必要だが、大学としては、プロ養成システムとしての機能強化の可能性を追求するのが重要であろう。そして、ポストク諸君には「タフであれ」と言いたい。

永田 俊（大気海洋研究所）

（淡青評論は、学内の教職員の方々をお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。）

学内広報において、一部誤りがありましたので訂正いたします。関係部署および関係者の皆様に深くお詫び申し上げます。

No.1409 (2011.2.22)

25 ページ：事務連絡 人事異動（教員）

表内 上から3行目 左から3列目

（誤）大学院工学系研究科准教授

（正）辞職

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報室の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報室までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、本部広報課を通じて行ってください。

No.1410 2011年3月24日

東京大学広報室

〒113-8654

東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学本部広報課

TEL：03-3811-3393

e-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

http://www.u-tokyo.ac.jp/